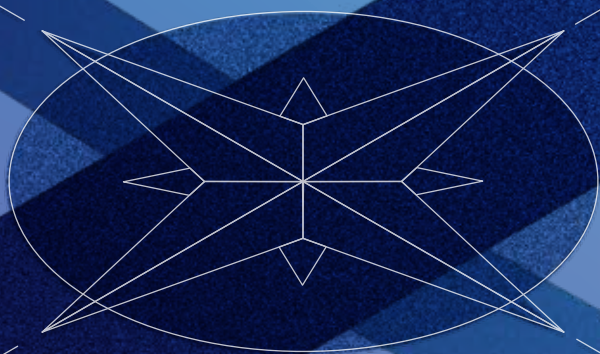


TOYO COMPASS

TOYO UNIVERSITY REPORT 2026



東洋大学

ALL for the FUTURE. ALL from PHILOSOPHY.

哲学を通して世界の本质を見極め、

倫理的な考え方にに基づき、

他者と協働して一歩踏み出す。

哲学を基礎とする教育から、

東洋大学は未来づくりに貢献する。

建学の精神

「諸学の基礎は哲学にあり」

「独立自活」

「知徳兼全」

東洋大学の教育理念

自分の哲学を持つ

本質に迫って深く考える

主体的に社会の課題に取り組む

東洋大学の心

他者のために自己を磨く

活動の中で奮闘する



「建学の理念」の詳細はWebサイトをご覧ください。
<https://www.toyo.ac.jp/about/introducing/concept/>

哲学教育を礎とし 世界に通用する人材を育てる

1887(明治20)年に哲学者 井上円了が創立した「私立哲学館」から、その歴史が始まった東洋大学。急速な近代化と共に日本社会が大きく変わろうとしていたこの時代、日本人の拠り所を取り戻すためには「哲学」が必要であると円了は考えました。哲学館では、いわゆる哲学者を養成するのではなく、哲学を通じて知力を磨き、社会で活躍できる人材を育成することを教育目標としました。現在の東洋大学も、井上円了の理念を受け継ぎ、社会に資する人材を育てています。

1858(安政5)年、新潟県長岡市浦の慈光寺の跡取りとして誕生。漢学や洋学などを学んだ後、1881年(明治14)年に東京大学文学部哲学科に入学し、「真理は哲学にある」ことを確信しました。29歳の若さで東洋大学の前身となる哲学館を創立して学校教育に邁進。また、全国巡回講演や3回もの海外視察を行うほか、精神集中の場としての哲学堂公園の建設にも身を捧げ、1919(大正8)年に生涯を閉じるまで、社会教育にも力を尽くしました。



創立者 井上円了
(1858-1919)

東洋大学の歴史

- | | |
|------|--|
| 1887 | 井上円了が本郷区龍岡町の麟祥院内に私立哲学館(東洋大学の前身)を創立 |
| 1897 | 小石川区原町に新校舎落成(現・白山キャンパス) |
| 1899 | 私立京北尋常中学校※を開設
※東洋大学京北中学高等学校 |
| 1905 | 京北幼稚園※を開設
※東洋大学附属京北幼稚園 |
| 1906 | 私立東洋大学と改称 |
| 1916 | 日本の私立大学で初めて女子の入学を許可 |
| 1920 | 「私立」の冠称が廃止され、東洋大学へ改称 |
| 1949 | 新制大学に移行、文学部を設置 |
| 1952 | 大学院を設置 |
| 1961 | 川越キャンパス(埼玉県)を開設 |
| 1963 | 東洋大学附属姫路高等学校(兵庫県)を開設 |
| 1964 | 東洋大学附属牛久高等学校(茨城県)を開設 |
| 1977 | 朝霞キャンパス(埼玉県)を開設 |
| 1997 | 板倉キャンパス(群馬県)を開設 |
| 2005 | 朝霞キャンパス(文・経済・経営・法・社会学部)の1・2年次を白山キャンパスに統合し、4年間一貫教育開始 |
| 2006 | 大手町サテライト(東京都)を開設
白山第2キャンパス(東京都)を開設 |
| 2011 | 総合スポーツセンター(東京都)完成
学校法人京北学園と法人合併し、京北中学校・高等学校、京北学園白山高等学校、京北幼稚園を併設校とする |
| 2012 | 創立125周年を迎える
125周年記念館(8号館)にて記念式典を挙行 |
| 2014 | 東洋大学附属姫路中学校(兵庫県)を開設
文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業(タイプB)」採択 |
| 2015 | 京北中学校・高等学校が東洋大学京北中学高等学校に校名変更し、東京都文京区白山に移転
東洋大学附属牛久中学校(茨城県)を開設 |
| 2017 | 赤羽台キャンパス(東京都)を開設 |
| 2021 | 赤羽台キャンパスに「WELLB HUB-2」が完成
ライフデザイン学部・ライフデザイン学研究科が赤羽台キャンパスに移転 |
| 2023 | 赤羽台キャンパスに新校舎「HELSPH HUB-3」が完成
赤羽台キャンパスに福祉社会デザイン学部と健康スポーツ科学部を開設 |
| 2024 | 朝霞キャンパスを再整備、新校舎が完成
生命科学部と食環境科学部が朝霞キャンパスに移転 |
| ： | |
| ： | |
| ： | |

未来を哲学する、東洋大学

学生のために 何が最善かを考え続け 持続可能な 未来の実現に貢献

歴史の転換点に立つ世界で 私たちが向き合うべき課題

世界は今、激動のただ中にあり、人類は数百年に一度とも言える歴史的転換点に立っています。とりわけ深刻なのが近年頻発する異常気象です。地球温暖化は、現実の脅威として顕在化しています。世界平均気温は過去最高水準に迫り、産業革命前からの気温上昇を1.5℃以内に抑えるという国際目標の達成は厳しさを増しています。こうした状況の中で、各国は2050年カーボンニュートラルの実現に向け、エネルギー政策の大きな転換を進めています。再生可能エネルギーの導入拡大や原子力の見直しなど、社会全体での変革が求められています。

一方で、AIやDXに象徴されるデジタル革命の進展は、電力需要の増大という新たな課題をもたらしています。AIは今や私たちの生活に欠かせない存在になりましたが、その利便性の裏側で膨大なエネルギー消費が生じているのです。環境負荷を抑えながら持続的な発展を実現するという難題に、私たちは向き合わなければなりません。さらに、国際政治においても不安定さが増し、世界各地で対立が深まっています。民主主義を支える仕組みの揺らぎが、社会の均衡を崩しつつある今、人類は改めて社会の在り方を問わねばならないでしょう。

時代の変化にしなやかに対応し 未来を生き抜く力を持った学生を育てる

こうした混沌とした時代において、大学の使命の根幹は「学生への奉仕」にあると私は考えます。大学の第一の責務は、学生一人ひとりに質の高い学びの機会を提供することです。学



Anzai Takashi
学校法人東洋大学 理事長
安齋 隆

1941年生まれ。東北大学法学部卒業。日本銀行、(株)日本長期信用銀行(現・(株)新生銀行)頭取、(株)アイワイバンク銀行(現・(株)セブン銀行)社長などを経て、2009年12月学校法人東洋大学理事に就任し、2018年12月から現職。

びとは知識の習得にとどまりません。AIに問いを投げかければ瞬時に答えが返ってくる時代において人間に求められるのは、自ら問いを立て、考え抜く力です。課題を発見し、本質を見極め、解決への道筋を描く力こそが、これからの社会を生き抜く基盤となります。大学は、多様な知識や価値観に触れ、議論や経験を通じてその力を育む場でなければなりません。また、大学で培った学びや経験が、卒業後の人生においても支えとなることこそが、教育の真の価値です。その実現のために、常に学生にとって何が最善かを考え続ける。その姿勢を貫くことが、大学の信頼を支えることにつながります。

未来の予測が困難な現代社会では、かつて有効であった手段がこれからも通用するとは限りません。変化しなければ淘汰されていく一方で、変化を恐れず挑戦する者にとっては大きな飛躍の機会に恵まれているのです。東洋大学はこれからも変化を恐れず挑戦する若者を育み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

中期計画を礎とし、明るい未来の実現に向けて奮闘する東洋大学。

今後のビジョンや注力していく各取り組みについて、安齋理事長と矢口学長に話を伺いました。



インタビュー
ロング版はこちら

<https://www.toyo.ac.jp/toyo2026/interview/>

「人間」を問い続ける哲学の学びが 社会を動かし、未来を拓く

一人ひとりの学びの旅へと導く 東洋大学の新たな挑戦

世界各地で相次ぐ戦争や、AIをはじめとする技術革新……。価値観や社会構造が大きく揺らぐ現代において、大学で学ぶ意義はこれまで以上に高まっています。学生の皆さんには、大学で幅広い知識と多様な価値観に触れ、一人ひとりの「学びの旅(Learning Journey)」を設計してほしいと考えています。

学びの旅を設計するうえで中核となるのが、2025年に始動した「総合知」教育です。全14学部・約600の専門科目を学部やキャンパスの枠を超えて履修できる仕組みにより、知と知が交差し、新たな発見や発想が生まれることを期待しています。さらに2026年からは新たな学年暦「13+2」を導入。オン

ライン講義等の工夫を凝らして15回の授業を13回分の授業と2回分のオンデマンド授業等で行い、8月～9月を「夏セッション」として確保します。海外研修やフィールドワークなど、教室外でのリアルな体験が専門教育と結びつき、より深い「総合知」へと昇華していきます。

また、2027年には環境イノベーション学部の開設も予定しています。企業や地域と連携し、現場と大学を往還する学びを通して、課題を発見・分析し、解決策を構想する力を養います。ここでいうイノベーションとは技術革新にとどまらず、人々の心構えや行動を大きく変えていくことに本質があります。環境問題に主体的に取り組み、人々の意識を変化させるアクションを起こすことが社会を変える第一歩となるのです。

本質を見極める力を身に付け 人間であることの喜びを実感する

日本は人口減少という課題に直面しています。その課題に対して、本学で学んだ学生たちは全国各地で社会貢献活動に取り組み、地域に新たな価値をもたらしています。「他者のために自己を磨く」「活動の中で奮闘する」という「東洋大学の心」を大切に、目の前の課題に真摯に向き合い続けているのです。

また、AIも現代の重要な課題の一つです。技術が飛躍的に進歩し、さまざまなことが可能になったとは言っても、AIはあくまで道具であり、最終的に何を成し遂げるのか決めるのは人間です。学生には本質を見極める力を身に付けることで、AIを適切に使いこなせるようになってもらいたいですね。

本学は「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神に基づき、哲学を基盤とした教育を通して本質を見極める力を持った学生を育成してきました。哲学とは、容易に答えの出ない問いに対して粘り強く考え続ける取り組みであり、人間にしかできない知的活動です。本学では授業や課外活動、社会との関わりの中で、さまざまな感情を伴いながら語り合い、考え合う機会を大切にしています。そうした議論の積み重ねにより、学生には人間的交流の中で生きることの面白さや奥深さを実感してほしいと願っています。



Yaguchi Etsuko
東洋大学 学長
矢口 悦子

1956年生まれ。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科(博士課程)単位取得満期退学。博士(人文科学)。専門分野は社会教育学・生涯学習論。複数大学の非常勤講師および他大学教授を経て、2003年4月から東洋大学文学部教授。文学部長などを歴任し、2020年4月から現職。

TOYO GRAND DESIGN

2025-2029

明るい未来の実現に向けて

東洋大学は、2025年より新たな中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2025-2029」を始動しました。「先進性」「多様性」「連携」「誠実」の4つを指針に掲げ、さまざまな取り組みを推進。研究・教育の高度化と、社会連携・社会貢献の実践により、地球社会の明るい未来の実現に貢献していきます。



新学部設置を契機とした 川越キャンパスの新たな展開

2027年度の環境イノベーション学部開設に合わせ、環境に配慮した新学部棟を川越キャンパスに建設中です(2027年1月竣工予定)。周辺に広がる「こもれびの森」を生きた教材とする、自然と調和した学習環境整備を推進しています。

P.09 Highlights 02 環境イノベーション学部

学生・生徒による

イノベーション創出支援

起業家教育を通じて、新しいアイデアやビジネス創出を支援しています。外部プログラムや卒業生と関係のある起業家と連携し、附属校の中高校生から大学生まで幅広い世代に挑戦の機会を提供します。

学校法人東洋大学SDGs行動憲章に基づく 全キャンパスでの SDGs活動の展開

「学校法人東洋大学SDGs行動憲章」のもと、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、全キャンパスに社会貢献センターの拠点を整備。学部や附属校と連携しながら社会貢献活動を展開します。

P.11 Highlights 03 東洋大学の社会貢献

一人ひとりの興味関心や 将来像に対応する 「総合知」教育の展開

2025年度から始まった新カリキュラム「総合知」教育。全14学部51学科・専攻の科目を、学部やキャンパスの垣根を超えて履修できる環境を整備しました。専門領域の知識に加え、幅広い教養をバランス良く身に付けることで「総合知」を育み、本質に迫って深く考える力を養います。

P.07 Highlights 01 「総合知」教育

個々に寄り添って支援をする

Career Vision Quest

学生が安心感や成長実感を持ちながら就職活動に取り組めるよう、一人ひとりに寄り添った支援を行っています。自己成長を可視化するツールとAIの活用、インターンシップの3つを柱とした独自の就職・キャリア支援プログラムを展開し、キャリア形成を後押しします。



就職・キャリア支援
特設サイトを公開中

詳細はこちら
<https://www.toyo.ac.jp/campuslife/career/>



いのち総合研究機構による 重点研究推進プログラムへの働きかけ

重点研究推進プログラムでは、学部横断・文理融合による東洋大学らしい特色ある研究が進められています。いのち総合研究機構は、プログラムの採択や予算配分のほか、プログラム間の調整や助言にも主体的に関与し、研究のさらなる高度化を促進。新たなイノベーションの創出を目指します。

最新の研究報告はP.17

リスクリリング・ リカレントの学びの場の提供

深刻化する労働力不足の解決には、生産性向上と働く人々のリスクリリング・リカレント教育が不可欠です。東洋大学は社会のニーズに応え、本格的な学びの機会を継続して提供しています。福祉職や管理栄養士などを対象とした、本学ならではのプログラムの構築にも取り組んでいます。

P.11 Highlights 03 東洋大学の社会貢献

TOYO GRAND DESIGN
2025-2029の
詳細はこちら
<https://www.toyo.ac.jp/about/foundation/granddesign/>



「総合知」教育

東洋大学では教育の質の向上を通じて、物事を多面的に捉えて本質を見極める「総合知」の醸成を目指しています。専門科目の学びと他分野の知見を融合させ、学部・キャンパスの垣根を超えて「総合知」を培う「Learning Journey」へ、学生一人ひとりを導きます。

多様な学びを創出する

「総合知」教育と

新・学年暦「13+2」

2026年度から「13+2」の学年暦を導入。各学期13回の通常授業と2回のオンデマンド授業等を組み合わせ、約2カ月の「夏セッション」「春セッション」を確保。カリキュラム(正課)の学びと課外活動で得られる多様な経験・学びの両輪で「総合知」を育みます。

「総合知」教育の特設サイトはこちら
<https://www.toyo.ac.jp/academics/convergence-of-knowledge/>



教室外での探求・実践により 学生それぞれの 学びが発展・深化



2026年春のT-Weeks期間には、3年生を中心に「就活キックオフ・フェス2026」を開催。659人の学生が参加しました。

学部・キャンパスの垣根を超えた履修

総合大学として類例のない規模である全14学部・約600の専門科目が、学部やキャンパスに関わらず履修できます。自身の興味・関心や将来像にあわせて自由に他分野の科目を履修し、自分だけの「総合知」を形作ることによって自身の可能性を拓いていきます。

▶ T-Weeks

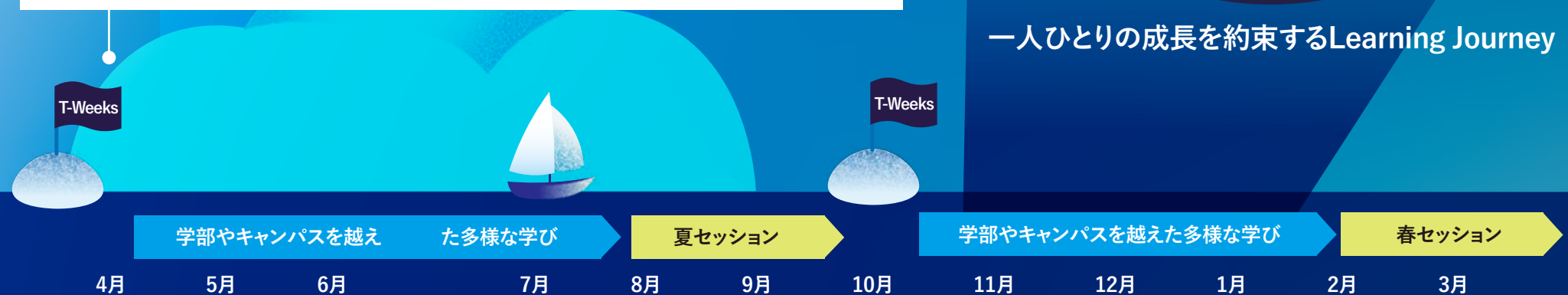
T-Weeksは各学期開始前に設ける約10日間、学修計画の検討、履修計画ガイダンス、就職や留学セミナーなど、学生が主体的に多様な学びに備えるための期間です。

▶ 夏・春セッション

通常授業以外の期間を夏・春に2ヶ月ずつ確保することにより海外留学やインターンシップ、ボランティア、外部機関での実習などの多様な課外活動に取り組みやすくなります。



一人ひとりの成長を約束するLearning Journey



「総合知」教育の今

2025年4月から開始した「総合知」教育。1年が経ち、学部・キャンパスを横断して授業を履修する学生は徐々に増加しています。2026年春学期では第1部の4分の1以上、第2部の約半数の学生が、学部横断的な「知の旅」を設計しています。

キャンパスを越えた学びに挑戦する
学生の割合(2026年度春学期)

1年次

10.2%

2年次

24.0%↑

※他キャンパス開講科目履修希望学生の割合

AI活用で支援する

30,000人の

Learning Journey

学生の興味・関心にあわせた履修をサポートするために、AIによる履修シミュレーションアプリ「総合知アプリ®」を学内開発しました。興味に沿った授業を探索する「Navigator」機能と履修を組み立てる「Simulator」機能で、複数の学びを結び付けて自身の「知の旅」を設計。学生による実際の履修事例も掲載しています。

自分野×他分野の融合

モデルケース1 経済学部経済学科の学生

経済学の知見をベースに、社会生活に生きる多彩なスキルを習得

履修組み合わせ

経済学基礎科目(経済学部開講科目)
+コンピュータ・リテラシー(理工学部開講科目)
+ホスピタリティ関連法規(国際観光学部開講科目)

モデルケース2 生命科学部生命科学科の学生

生命(理学)×食(農学)×存在論(哲学)を融合した高度な探究

履修組み合わせ

細胞生物学、神経生物学等(生命科学部開講科目)
+食品物性論(食環境科学部開講科目)
+哲学(全学基盤教育科目)

「総合知アプリ®」をご覧ください

学生による履修事例を
アプリからご覧ください
<https://toyo-ck.web.app/home>



※「Navigator」「Simulator」の使用にはログインが必要です

2027年4月開設

環境イノベーション学部

高度な技術開発と、持続可能な社会の実現を両立するために、幅広い分野で環境戦略の重要性が高まっています。新設する環境イノベーション学部は、未来社会に新たなインパクトを生み出すための力を育みます。

人間を取り巻くすべてをフィールドにした学び

環境イノベーション学部では、自然環境だけでなく、暮らしやエネルギーなど、人間を取り巻くあらゆる環境問題の解決を目指しています。そのために、文理の垣根を超えた総合的な学びを提供します。

「環境イノベーション学部」特設サイト公開中

学部カリキュラムから、学びを通じて描けるキャリアまで、特設サイトで分かりやすく紹介しています。地球上で起きている環境問題を“自分の視点”で考えるためのコラムも掲載。ぜひ特設サイトをご覧ください。



▼コラムも公開中



環境イノベーション学部
特設サイトはこちら
<https://www.toyo.ac.jp/env/>



実感と実体験を重視した3つの学びの特長

01 環境×デジタルで課題の解決へ

環境対策に関する科学的知識に加え、先端的なデジタル技術やデータ解析の手法を学べるカリキュラムを展開。テクノロジーの力で環境問題の解決に挑み、“グリーン・デジタル社会”の実現を担う人材を育成します。

02 環境問題と社会をつなぐ

社会全体で環境問題の解決に取り組むため、科学的根拠を持って専門知識や技術を人々に分かりやすく伝える「科学コミュニケーション力」を養成。学生がさまざまな関係者との対話を重ねて協働・共創を実践できるカリキュラムを提供します。

03 環境に配慮した新校舎

新校舎は、環境に配慮した先進的な技術で設計され、エネルギー消費実質ゼロを目指すZEB※仕様を採用。また、自然と調和したバイオフィリックデザインを取り入れ、リラックスして創造性等が高まるような手法を用いています。

※Net Zero Energy Building

川越キャンパス こもれびの道を リニューアル

2025年11月、学生や教職員、地域のみなさんに長年親しまれてきた「こもれびの道」ならびに新西門をリニューアル。開放的なアプローチ、生態系を守るためのバイオパス（小動物通路）の設置など、これからの川越キャンパスを象徴する「こもれびの森」の新たな顔として生まれ変わりました。

イノベーションを 創出する2つの力

新たな技術を開発する力と、その技術を社会に浸透させる科学コミュニケーション力を養う文理の枠に捉われないカリキュラムで、環境課題の解決を目指します。

環境創造力

現代社会の環境課題は、複雑で多様化しています。これらに対応するために、先進的な知識と技術を融合させて新たなアプローチを提案する高度な開発力、つまり環境創造力が必要です。

科学コミュニケーション力

環境課題の解決には、社会全体の理解と協働が欠かせません。専門家の知識や技術を分かりやすく伝え、理解と共感を生み出す科学コミュニケーション力によって、人々の行動変容を促します。

実社会との 連携で得られる “実践知”

環境施設の実地研修

環境関連施設、環境配慮施設を見学し、実際の現場で起こっている問題について調査を行うことで理解を深めます。



経営者インタビュー

企業経営における環境配慮の考え方や取り組みについて経営者にインタビューを行い、社会で求められる環境学を学びます。



こもれびの森での観測・実習

「こもれびの森」に出て観測や演習を実施。さらに、校舎やキャンパス内で測定した環境データを授業に用いるなど、キャンパス全体が学びのフィールドとなります。



東洋大学の 社会貢献

「社会のあり方を考える」

井上円了の志に

基づく実践

東洋大学の社会貢献
特設サイトはこちら
[https://www.toyo.ac.jp/
social/contribution/](https://www.toyo.ac.jp/social/contribution/)



東洋大学は、「他者のために自己を磨く」「活動の中で奮闘する」という2点を「東洋大学の心」として掲げています。これらに基づき、大学が果たすべき役割を問い続けながら、多様な社会貢献活動を展開してきました。地域や社会の現場に真摯に向き合い、そこにある本質的な課題を見つめ、解決策をつくりあげていく。「哲学」に根差した社会貢献を通じて、時代や社会の変化に応じた新たな価値創造を継続しています。

「社会貢献」「生涯学習」の2軸

2013年に設置された社会貢献センターでは、ボランティア活動などを推進する社会貢献部門と、リスクリング・リカレント教育などを行う生涯学習支援部門の二つを柱に、地域社会への貢献に取り組んでいます。ボランティア活動では、センター・学生・教職員が一体となって参画し、学生自ら企画した活動を主体的に展開。活動を通して社会から学びを得ながら、地域との相互関係の中で新たな価値を生み出しています。



能登半島地震

被災地における

継続的な復興支援

「青いビブス」の活動の
詳細はこちら

[https://sites.google.com/toyo.jp/
volunteer/top/noto2024report](https://sites.google.com/toyo.jp/volunteer/top/noto2024report)



持続可能な社会の実現へ

大学が任命する

学生アンバサダー

東洋大学では、個人または学生団体に対して「東洋大学SDGsアンバサダー」の称号を付与し、学生たちの主体的な取り組みを支援しています。

2025年度は、141名の学生と7団体がアンバサダーに認定されました。

学生たちは各キャンパスを拠点とした活動をはじめ、「環境」「防災・まちづくり」「ダイバーシティ」といったテーマに基づく活動を全学で展開。ボランティア支援室が主催するイベントや学内外のさまざまな企画にも積極的に参加し、活動の幅を大きく広げています。



創立以来取り組み続ける

開かれた「社会教育」

創立者 井上円了が掲げた「余資なく、優暇なき者」のための「社会教育」と「開かれた大学」の理念を継承し、東洋大学は多様な学びの機会を社会に提供しています。東洋大学フィロソフィアアカデミー／公開講座では、教養から最先端の研究成果まで幅広いテーマの講義を開講。また、日本全国の小・中・高等学校や教育委員会、企業などへの講師派遣も行い、大学の知を広く社会に還元しています。

リカレント教育の
詳細はこちら
[https://www.toyo.ac.jp/
social/recurrent/](https://www.toyo.ac.jp/social/recurrent/)



2025年度

公開講座
開講数 44講座
受講者
人数合計 1,279名

講師派遣 77件
3,120名

Topics of TOYO Campus

学生の多様な学びを支えるため、東洋大学はキャンパス改革を推進しています。



白山キャンパス（東京都文京区）

受け継がれる思想、広がる学び 文系学部の学びの中心地

白山キャンパスは、東洋大学のメインキャンパスであり、創立以来受け継がれてきた伝統と知の財産が息づいています。文学部、経済学部、法学部など文系7学部・7研究科が集結し、多様な学びや交流が生まれる知的拠点です。東京都心からのアクセスも良好で、講義棟や図書館、学生食堂、キャリア支援センターなど、学生の学びと成長をバックアップする施設が充実しています。また、創立者 井上円了の哲学と思想を伝える「井上円了記念博物館」も併設されており、歴史と革新が融合したキャンパス環境が特徴です。



赤羽台キャンパス（東京都北区）

先端と現場の架け橋 社会とつながり、課題に挑む

赤羽台キャンパスは、情報、福祉、教育、デザイン、健康スポーツ、栄養など多岐にわたる分野が融合する都市型・地域密着型のキャンパスです。IoTをはじめとした先端技術を活用した教育・研究施設が充実しており、実践的なスキルや専門性を高める学びの場を提供しています。特に地域社会との連携を重視し、学生が地域のリアルな課題に取り組むことで、自ら考え行動する力を育む環境が整っています。多様な価値観や専門性が交差するこのキャンパスは、共創とチャレンジ精神を育てます。



川越キャンパス（埼玉県川越市）

科学がつながり、未来が生まれる SMART GREEN CAMPUS、川越

川越キャンパスは、広大な敷地に最先端の研究施設と実験・実習環境が整う、理工系教育研究の拠点です。理工学部・総合情報学部に加え、2027年には環境イノベーション学部が新たに開設され、3学部が連携しながら新たな価値創造に挑みます。スタジオや実験室、物創り工房、ミニシアターを備えた7号館をはじめ、充実した施設が実践的な学びを支えています。また、体育館や陸上競技場、野球グラウンドなどのスポーツ施設も整備され、課外活動も活発です。



朝霞キャンパス（埼玉県朝霞市）

最新設備で実践知を育む 命と食の研究拠点

朝霞キャンパスは2024年に新校舎が完成した、命と食に関する新しい学びの拠点です。先端的な研究施設や、学生同士の交流・協働学習を促す多機能オープンスペース「パブリックレーン」など、創造性や主体性を引き出す環境や栄養や健康、生命に関わる専門分野を中心に、国家資格の取得を目指す学生をサポートする充実した設備と体制が特徴です。また、学生が中心となって企画・運営する学食「Umart!(ユーマート)」は学びの実践の場となっています。

Action&Impacts

東洋大学では、最先端の研究や産官学連携・社会貢献活動など、さまざまな事業を行っています。大学や社会の革新につながる、独創的で先進的な取り組みの詳細や成果をご紹介します。

Index

教育	P.15
研究	P.17
社会連携	P.19
スポーツ	P.20
附属学校・幼稚園	P.21



世界を変える学生・教員の研究成果が 学外から高い評価を獲得

東洋大学の教育・研究成果が社会から高い評価を集めています。生命科学部の廣津直樹教授を中心とする研究グループは、穀物中のミネラルの体内吸収を妨げる物質「フィチン酸」を化学的に低減させる手法を世界で初めて開発し、その成果が国際学術誌「Nature Food」に掲載されました。育種や遺伝子改変を必要とせず、薬剤を用いだけで穀物の栄養価を高められるこの技術は、世界中のさまざまな穀物種への応用が期待されています。

また、情報連携学部(INIAD)の浅野凌輔さんと高橋侑大さんが立ち上げたプロジェクトが、優秀なデジタル人材を支援・育成する「2025年度 未踏IT人材発掘・育成事業」に採択されました。Webブラウザ「Floorp」の開発実績をベースに、Webブラウザとパソコンやスマホの基本システム(OS)を統合し、AIを活用した作業の自動化や効率化を目指しています。



左から生命科学部 廣津教授、生命科学研究科修士 赤羽根さん、食環境科学部 加藤教授



左から情報連携学部 高橋さん、浅野さん

総合政策学科 井上ゼミ



国際経済学科 吉田ゼミ考案のエコバッグ

実践的な大学の学びが ビジネスに新たな価値を還元

東洋大学の学びは教室の中だけにとどまりません。学生は社会とつながり、実践を通して課題解決に挑んでいます。経済学部国際経済学科の吉田ゼミではフェアトレード商品の開発に取り組み、国際フェアトレード認証コットンを使用した2Wayエコバッグを考案。実際にホテルJALシティ羽田 東京/ウエストウイングにて、エコバッグ付き宿泊プランが販売されました。また、経済学部総合政策学科の井上ゼミでは、出張買取サービスを展開する企業と連携し、キャンペーンを共同開発。「WWWWWWWIN×WIN(ウィンウィン)」は、顧客・企業・社会の“三方良し”を実現する口コミ連動型社会貢献キャンペーンで、全国130拠点で実施されました。学生は業界構造やフランチャイズの仕組み、顧客心理などを学んだ上で社会性と実効性を兼ね備えたアイデアを提案し、学びをビジネスへと結びつけました。

早期から社会の最前線に触れ キャリア観を養う

2019年度に一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会と締結した協定に基づき、東洋大学では全学部2年生を対象としたインターンシップおよび、産官学連携教育の一環として大学院修士課程1年生向けのインターンシップ「M1エンカレ」を実施しています。一般的な3年生向け短期インターンシップとは異なり、低学年のうちから概ね2週間以上にわたり実社会を体験できるのが特徴です。また、「M1エンカレ」は就業体験を通じた、研究意欲やキャリア観の醸成を目的として、その後の就職への接続も期待されています。2025年度は、三井住友銀行や日本航空をはじめとする多様な業界の企業へ、学部生11名、大学院生2名を派遣しました。参加した学生からは「これまで知らなかった業界にも興味を持ち、視野が広がった」「目指すキャリアが具体化し、今後学修すべきことが明確になった」といった声が寄せられています。本学では指導教員による事前事後の研修を独自に実施し、成果報告会までの一貫したプログラムで、学生は実社会での経験を自らの成長へと昇華させます。早い段階で企業の現場に触れることで、学生は働くことへの理解を深めるとともに、自身の課題や強みに気づき、その後の学修やキャリア形成へとつなげています。



事後研修会の様子

多角的な国際化の取り組みで グローバル・エンゲージメントを実現

東洋大学はスーパーグローバル大学創成支援事業を通じて進めてきた国際化を着実に推進しています。本学は日本で初めてHEIAS*を活用。教育・研究・運営における国際化の継続的な発展が認められ、「包括的な国際化およびグローバル・エンゲージメントの実現」のラーニングバッジを授与されました。また、「TOYOグローバル産業人材育成プログラム」が文部科学省「留学生就職促進教育プログラム」の認定を受けました。外国人留学生に対する「ビジネス日本語教育」「キャリア教育」「インターンシップ」を通して、日本での就職活動に必要な語学力やマナー、スキルなどの習得を支援します。さらに、2025年にはフランスのストラスブール大学と交流協定締結40周年を迎えました。10月と11月には記念シンポジウムを相互に開催。長年の信頼関係を礎に、これからも学術交流の新たなステージを切り拓いていきます。

※HEIAS(高等教育国際化アドバイザーサービス)…ユネスコ(UNESCO)の支援のもと設立された国際大学協会が、その加盟大学や政府機関などに対して提供する国際化を推進するためのプログラム



Action&Impacts

Academics

教 育

哲学を基盤に、
現代社会の変化に応える
総合知と実践力を備えた
学生を育成

東洋大学は14学部51学科専攻を擁する総合大学です。1887年の創立以来、「諸学の基礎は哲学にあり」という理念のもと、物事の本質を深く考え抜く力を育む教育を展開してきました。多様な分野を横断的に学ぶことで得られる総合知と、実社会と連動した実践的な学びを通じて、変化の激しい現代社会にしなやかに対応し、未来を切り拓く力を養います。

東洋大学の
教育について



<https://www.toyo.ac.jp/academics/>



学内で、最短3時間から業務体験が可能

多様なキャリア支援プログラムを通して

05 学生の挑戦を支える

東洋大学では「主活力(=主体的に活動できる力)」の向上を目指したキャリア支援・就職支援を展開しています。「Meet & Connect ～企業と出会う一日～」では、金融・物流・コンサルティングなどさまざまな業界の業務を体験。就職活動が本格化する前の1・2年生から参加でき、働くことや将来のキャリアについて具体的なイメージを描く機会となっています。企業と意欲の高い学生が接点を持てる場でもあり、大学が橋渡し役となって双方の中長期的な関係を築いています。また、「UP講座」も特徴的なプログラムの一つ。1年次にはONE UP(自分を知る)、2年次にはTWO UP(社会を知る)、3年次にはTHREE UP(相手を知る)と段階的に成長し、4年次の就職活動本番へとつなげます。東洋大学は一人ひとりに寄り添いながら挑戦を後押しし、主体的に未来を切り拓く学生の伴走者であり続けます。

トランスファブルスキルを持った 次世代を担う若手研究者を育成

東洋大学は大学院教育・研究の充実に力を注いでいます。科学技術振興機構(JST)の次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)令和6年度新規プロジェクトに、本学の「健康と人間の安全保障のための哲学を持つ多様な挑戦的研究者育成プロジェクト」が採択されました。専門分野を越えて活躍するためのトランスファブルスキルの醸成などを行い、博士人材の多様なキャリアパスの整備を目指します。また、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターとの連携・協力に関する協定を締結し、教育・研究・学術文化交流の各分野で相互協力を推進。2026年1月には、SPRINGに関わる大学院生らが同センターを訪問し、研究室の見学や健康調査の検査機器のデモンストレーション、ポスター発表など、センター所属研究者との学術交流を展開しました。今後も実践的な連携を通じて、研究力と人材育成のさらなる高度化を図っていきます。

プロジェクトに選定された若手研究者たち



多分野の知が交わり 「いのち」の調和を導く

いのち総合研究機構では、あらゆる「いのち」の調和を目指す研究を推進しています。いのちの調和を実現するためには、一つの研究分野の知見だけではなく、多様な領域の知見を融合させることが不可欠です。本機構の起点となるのが、東洋大学重点研究推進プログラム。本学が世界水準の大学へと発展することを目標として、独自の大型研究助成金を用意し、独創的な研究プロジェクトを支援しています。現在進行中の11のプロジェクトの中から、3つの事例を紹介します。

事例1

教育・文学・芸術の可能性をAIで切り拓く

「生成AI・データサイエンスの活用による教育・文学・芸術の革新に向けた研究(2025年度～2027年度)」では、3領域における新たな概念的枠組みの構築に挑みます。教育分野では、神場知成教授らがAIを活用してプログラミング学習のモチベーションを高める研究を行いました。文学分野では、高柳祐子准教授や中村周吾教授がAIによる古典和歌の分類に取り組み、精度を大幅に向上させることに成功。芸術分野では、石川知一准教授らがAIを用いたVR(仮想現実)などの映像コンテンツ制作に注力しています。



事例2

学術研究の知見を用いた働き方改革

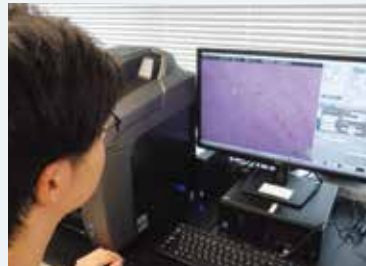
「生活も仕事も充足して継続できる社会の実現に向けた、職業キャリアの実証研究(2024年度～2026年度)」では、学術研究の成果を活用して東洋大学の教職員が働きやすい環境を実現します。2025年度には、西野理子教授を代表とする研究者らが育児・介護休業や時短制度に関する質的なインタビュー調査を行い、2024年度からの2年間で46名からデータを収集。また、全職員を対象としたWEBアンケート調査に397名が回答したほか、関西大学において比較調査を実施しました。収集した多様なデータをもとに、職場環境の改善を目指した研究を推進していきます。



事例3

生物の知恵をものづくりに応用する

「未来を拓くバイオミメティクス(2024年度～2026年度)」では、生物の優れた機能や仕組みなどを、科学・医学・産業などのものづくりに応用しています。合田達郎教授は、生体膜を模倣し、新型コロナウイルスなどを認識する特殊なセンサーを開発。他にも、昆虫の体表面構造にヒントを得た防汚表面構造や、鳥の目に倣った血中酸素飽和度計測カメラなど、多くの研究者がさまざまなものづくりに挑戦しています。さらに、教育面でのバイオミメティクスの普及や、哲学的価値の探究など、文理融合研究も展開しています。



Action&Impacts

Research

研 究

東洋大学の
研究について



<https://www.toyo.ac.jp/research/>

産官学連携で新たな知を創出し 社会課題に挑む

東洋大学では産官学連携による共同研究を積極的に推進しています。東洋大学・富士通株式会社・尼崎市の三者は、非接触型センサによって計測した心拍数や呼吸数などの生理指標をもとに、騙されている状態を検知する特殊詐欺検知AIを開発してきました。2024年には、高齢者の自宅環境を対象とした実証実験を実施。性格特性に起因する生理指標の変動の個人差を補正する技術を新たに開発したことで、82%の検知精度を実現できました。また、2025年からは朝霞キャンパスの「朝霞研究機器共同利用センター」で学外共同利用を開始。独自性の高い研究を支える約30台の研究機器を、学外研究者・研究機関・企業等に開放しています。センターには機器に精通する研究技術員を配置し、利用のサポートから機器のメンテナンスまでを行います。安心して利用できる環境を整え、さらなる共同研究の発展に貢献します。



特殊詐欺検知AIの実証実験イメージ

03 柑橘類の研究で発見した 世界初の知見を商品化へ

東洋大学の研究成果は製品として社会に還元され、新たな価値を生み出しています。例えば、柑橘類の果皮に多く含まれる成分「オーラブテン」が熱に対して丈夫な血管の形成を促し、熱中症の予防・軽減・治療に効果的であることを世界で初めて発見しました。この知見を利用し、2025年7月にUHA味覚糖株式会社より「暑払飴(しょばらあめ)」が商品化されました。柑橘類の中でも特にオーラブテンを豊富に含むハッサクに着目。キャンディには和歌山県紀の川市産「紀の川はっさく」のビューレと果皮から抽出したオーラブテンを配合し、熱中症への効果が期待される製品となりました。本商品は東洋大学発ベンチャー企業「株式会社和環」を中心に展開されている産官学連携「ハッサクプロジェクト」の一環として開発されたものです。今後も研究成果を活かし、人々の暮らしに貢献する製品開発を推進していきます。



2026年7月から「塩はっさく飴」として発売されています

スタートアップ企業の 社会を変える挑戦を力強く後押し

わずか29歳で東洋大学の前身・私立哲学館を創立した井上円了。その志を受け継ぐ東洋大学は、スタートアップ企業やベンチャー企業の創出と成長を支援しています。「他者のために奮闘するスタートアップ」を基本コンセプトに据え、起業を志す段階からビジネスモデル構築に至るまでの初期フェーズに重点を置いた支援環境を構築。この「他者のために奮闘するスタートアップ」創出支援環境構築計画は、東京都の「大学発スタートアップ創出支援事業」に採択され、「JSTスタートアップ・エコシステム共創プログラム」のInland Japan Innovation Ecosystem(IJIE)やGreater Tokyo Innovation Ecosystem(GTIE)といったプラットフォームにも参画しています。さらに、2026年3月にはシーズビッチイベント「TOYO DEMO DAY」を開催。学生や研究者などが自らのアイデアや研究成果を発表し、社会実装へとつなげる場となりました。



TOYO DEMO DAYの様子

継続的な能登半島復興支援を さらに未来へつなぐ

東洋大学は【他者のために自己を磨く、活動の中で奮闘する】学生の育成を掲げ、ボランティア活動を推進しています。2024年3月から継続的に能登半島の復興支援を行い、延べ300人を超える学生・教職員が参加しています。現地での活動をけん引してきた東洋大学能登復興支援団体「青いピブス」の学生が主体となり、2025年10月に「2025年度夏季能登半島ボランティア活動報告会～能登半島そして能登の隣人の声を『五感』で聴こう～」を開催。これまでの活動内容の発表に加え、グループディスカッションを通じて金沢大学の学生と交流を深めました。また、2026年1月には公認ボランティアサークル「学ボラ」発足20周年記念講演「【東洋大学×旧山古志村×能登】地域共創シンポジウム～被災からの復興と持続可能なコミュニティを考える～」を開催。2004年の新潟県中越地震をきっかけに始まった「学ボラ」の20年の歩みを振り返るとともに、能登半島での復興支援の経験を踏まえ、被災地との関係づくりや持続可能な地域コミュニティのあり方について考察を深めました。



社会に開かれた大学を目指して 充実したリカレント教育を展開

創立者 井上円了が掲げた理念「余資なく、優暇なき者に教育を開放する」に基づき、東洋大学では広く社会に向けて充実したリカレント教育を提供しています。公開講座は、14学部約800名の現役教員をはじめ、名誉教授、職員、卒業生までが参画し、大学の知を結集。2025年度は全44講座を開講し、計1,279名が受講しました。また、2024年に開始した「東洋大学フィロソフィアアカデミー」は、哲学を基盤に自分自身と社会に向き合う学びの場です。アクティブラーニングプランでは、自身の興味・関心を磨き、他者との交流を通じて、豊かで彩りある生き方を探求します。リカレント・リスクリングプランでは、現役の講師陣から最先端の専門知識や最新の研究成果を学び、スキルアップを図ります。新たな知を提供することで、一人ひとりの「なりたい自分」への歩みを力強く支えています。

アンバサダーがSDGsを推進 大阪・関西万博にも登壇

東洋大学では学生個人または学生団体に「東洋大学SDGsアンバサダー」の称号を付与し、SDGsに関する多様な活動を後押ししています。2025年度は新たに68名を認定し、前年度から継続する41名を含めて認定者は計109名となりました。SDGsアンバサダーの学生はメンバー主催の説明会への参加、面談を受けた後、学内の関係委員会による推薦・承認を経て、学長から称号を授与されます。また、ボランティア活動に取り組む学生団体についても、新規3団体・継続5団体の計8団体を「SDGs団体アンバサダー」として認定し、活動支援を行っています。さらに、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）において環境省主催「SDGs Students Dialogue Expo 2025」に、SDGsアンバサダーの学生を含む東洋大学生5名が参加。国外の大学生とチームを組み、3カ月にわたって本学のチームは海洋プラスチックごみ削減という環境課題の解決に挑みました。考案したアクションプランは大阪・関西万博でプレゼンテーションを行いました。



Action&Impacts

Social Cooperation

社会連携

人と社会をつなぎ
地域から世界までグローバルに貢献

創立者 井上円了の志を受け継ぎ、「開かれた大学」づくりを展開してきた東洋大学。地域社会への貢献はもちろん、SDGsの実践によって地球規模の課題解決にも取り組んでいます。

東洋大学の
社会連携について
<https://www.toyo.ac.jp/social/>



大阪・関西万博のサステナードムで
アクションプランを発表



陸上競技部応援プロジェクトなどを通し 大学スポーツの活性化に貢献

一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）が主催する「UNIVAS AWARDS」は、大学スポーツの振興に貢献した学生アスリートやスポーツに関わる学生、団体を表彰するものです。「UNIVAS AWARDS 2025-26」において、「東洋大学鉄鉋の襷応援プロジェクト～導け箱根の頂点へ～」が、大学スポーツプロモート優秀取組賞を受賞しました。本プロジェクトは、陸上競技部長距離部門を対象に「資金充実」「応援文化」「運営持続力」の3柱を強化する革新的な試みです。選手・大学・企業が共に成長する新たなモデルを提示し、東洋大学のスポーツプロモート力を高めました。こうした点が、大学スポーツ活性化の先進的事例として高く評価されています。そのほか、陸上競技部短距離部門やサッカー部女子部門、水泳部、東洋大学公認スポーツチャンバラサークル白刀会の学生6名も、最優秀賞などを受賞しました。



UNIVAS AWARDS 2025-26授賞式の様子

Action&Impacts

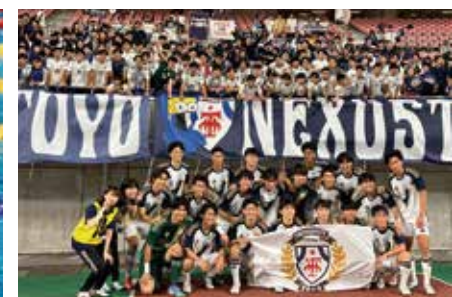
Sports

スポーツ

スポーツを通して人間力を磨き
社会に新たな価値を創出

東洋大学はスポーツを通じた人材育成や社会活動を推進しています。アスリートの成長をサポートするだけではなく、大学スポーツの発展や地域への貢献にも注力しています。

東洋大学の
スポーツについて
<https://www.toyo.ac.jp/campuslife/toyo-sports/>



国内外の大会に挑戦し

02 躍進する運動部のアスリートたち

東洋大学では、運動部に所属する学生が国内や世界を舞台に見事な活躍を見せています。世界水泳選手権シンガポール2025では、男子400m個人メドレーの決勝で、松下知之選手が銀メダルを獲得、西川我咲選手が4位に入賞しました。第101回日本選手権水泳競技大会では、松下知之選手が男子200m個人メドレーと男子400m個人メドレーと男子200mバタフライで優勝し、3冠を達成。さらに、竹原秀一選手も男子100m背泳ぎと男子200m背泳ぎを制し2冠に輝き、男子200m背泳ぎについては今回の優勝で4連覇となりました。サッカー部男子部門は、サッカー天皇杯にアマチュアシードとして出場し、柏レイソルやアルビレックス新潟といった強豪J1クラブに勝利。2025年度第49回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントでは関西学院大学を下し、初優勝を果たしました。さらに、第26回アジア陸上競技選手権大会では、陸上競技部短距離部門の柳田大輝選手が優勝し、男子100mでは日本人初の2連覇を達成しました。



スポーツを通して地域とつながり 子どもたちの未来を育む

東洋大学は、スポーツを通じた地域交流や社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。朝霞キャンパスでは、朝霞市在住・在学の小学生を対象としたサッカー教室「TOYO UNIV. SOCCER CLINIC in ASAKA」を開催。108名の小学生を対象にサッカー部男子部門・女子部門の部員がサッカーの楽しさを感じてもらえるような教室を行いました。また、硬式野球部は川越キャンパスにて川越市・鶴ヶ島市在住の小学生を対象とした野球教室「第3回ベースボールクリニック in 川越」を実施しました。中日ドラゴンズからドラフト指名を受けた花田旭選手も参加し、250名の小学生がピッチング、バッティング、守備の練習に打ち込みました。さらに、川越市主催の「川越ラグビーフェスティバル」に本学ラグビー部が協力。ラグビー部卒業生で俳優の高橋光臣さんを特別ゲストとして迎えました。コンバージョンキック体験会やラグビー体験会では部員が丁寧に指導し、多くの参加者と気持ちの良い汗を流しました。

東洋大学附属姫路中学校・高等学校

東洋大学の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」を継承し、考える力の育成と校訓「自立・友情・英知」を基礎に据えた教育を行っています。その中心となるのが、「哲学」、「グローバル」、「探究」の3つの柱からなる「キャリア・フロンティア」で、「確かな学力」と「豊かな人間力」を育成しています。また、物事の本質を追求するための「考える力」、国際社会で求められる「自分の意見をはっきりと持ち、発信できる力」、社会人に必要な自立心を培い「自らの進路を自分で考え、選択できる力」を養い、未来を担うグローバル人財の輩出を目指しています。附属姫路中学校は、姫路市内初の男女共学中高一貫校として2014年に開校しました。附属姫路高等学校は、2022年に制服やコース制をリニューアル、2023年に創立60周年を迎え、さらなる躍進に向けてさまざまな取り組みに挑戦しています。



Topics

本校の地域活性部PROJECT TOYOが、修養団創立120周年記念「第20回SYDボランティア奨励賞」において「文部科学大臣賞」を受賞しました。PROJECT TOYOは、地域創生の取り組みとして主に休耕田を活用して米や野菜を栽培し、商品開発を通して特産品づくりに取り組んでいる部活動です。過去には市の伝統野菜である姫路若菜の栽培や、有害駆除された鹿肉を使用した缶詰の商品化などを行いました。また、本校野球部が昨年の第97回選抜大会に続き、第107回全国選手権大会、第98回選抜大会と3期連続で甲子園に出場しました。第107回全国高校野球選手権大会においてはベスト8入りを果たしました。



東洋大学附属牛久中学校・高等学校



2021年4月に文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク参加校」に認定されました。国際化を推進し続ける東洋大学との連携も活かし、グローバル人材育成教育を進めています。海外語学研修や国際交流活動、ディベートなどの多彩な教育内容に加えて、「グローバル探究」（哲学・国際理解・教養・課題研究・キャリアから構成されるオリジナル教科）を通して、世界の人々と共生できる力を育成します。高等学校には、生徒の個性に合わせた5つのコース（特別進学・グローバル・進学・スポーツサイエンス・中高一貫）を設置。志望する進路に応じた最適なカリキュラムのもと、基礎から応用まで幅広い学力の定着を目指します。附属中学校から内部進学した中高一貫コースの生徒は、教育課程を早期修了し、国公立大学や難関私立大学への進学に備えます。

Topics

文部科学省より、令和8年度スーパーサイエンスハイスクール（SSH・文理融合基礎枠）の指定を受けました。本校の研究課題は、『哲学的思考を基盤とした「総合知×データサイエンス」融合プログラムの開発～従来の科学的方法論（仮説設定・検証）に、現代のデジタル技術（ビッグデータ、AI）と、本質をとらえる力（哲学的思考）を統合する～』です。東洋大学の伝統である「哲学」を教育の核に据え、全校で「哲学シンキング」を展開し、本質的な問いを立てる力を磨きます。そこに最新の「データサイエンス」を掛け合わせ、ICTやAIを駆使した客観的な実証力を身に付けます。さらに、地域課題の解決やグローバルな発信を通じ、文理の枠を超えて未来を切り拓く「総合知」を備えた人材を育成します。



Action&Impacts

Attached School and Kindergarten

附属学校・幼稚園



東洋大学の
附属学校・幼稚園
について
https://www.toyo.ac.jp/toyo2026/attached_school/

東洋大学京北中学高等学校

大学附属の男女共学・中高一貫教育校として、附属校のメリットを最大限に活かしながら国公立大学や難関私立大学への進学を目指します。「より良く生きる」をテーマとした哲学教育（生き方教育）、国際社会で活躍できる力を身に付ける国際教育、そして自己の人生を意欲的に創造するキャリア教育を3本の柱として実践しています。数学・理科・情報に対する生徒たちの興味・関心を高めることを目的とした「KSST（京北スーパーサイエンスチーム）」の活動も推進しています。東洋大学の理数分野に関わる学部・学科との連携プログラムである「未来の科学者育成プロジェクト」への参加や、理化学研究所、国立遺伝学研究所見学などを通じて、理科教育にも強い学校の実現を目指します。



Topics

本校では、中高大連携による理数教育を通して、生徒の探求心・知的好奇心を育成します。中学3年生対象の「未来の科学者育成プロジェクト」では、東洋大学の教員指導の下、「なぜ？」という疑問を出発点に、実験や試行錯誤を重ねながら自然現象を科学的に探究します。また、中学生対象の「KSST Jr」では、海・川・山でのフィールドワークを通して自然に直接触れ、教科書だけでは得られない学びを深めます。更に、高校生対象の「KSST」では、研究機関や企業訪問、ハワイ島でのフィールドワークなどを通じて最先端の科学に触れ、自ら学び続ける姿勢を養います。これらのプロジェクトを受けて、知的好奇心に溢れ、自らが多角的に考え、探究する生徒を育成しています。



東洋大学附属京北幼稚園



Topics

本園では、子どもたちの探求心や自己肯定感を育むことを目的として、東京都が推進する「とうきょう すくわくプログラム」を新たに導入しました。2025年度は年少組を対象とし、『くらべる 様々な事物を比較し、大きさ、形、色、質感などを楽しむ』をテーマに実施。全4回の活動の中で、身近なものを手に取って比べる体験を通じ、子どもたちは好奇心をふくらませ、想像の世界を広げる楽しさを学びました。



本園は、創立者 井上円了が生涯教育の中でも特に重視した「人格の基礎を形成する幼稚園教育」の理念に基づき、1905年に創設されました。以来、本駒込の地で120年にわたり教育活動を重ね、3,000名を超える子どもたちを見守ってきました。2024年度より園名を「東洋大学附属京北幼稚園」に変更し、新たなスタートを切りました。東洋大学では、保育者を養成する学科をはじめ幼児教育に関わる領域の研究が進んでおり、附属園としてこれらの知見や教育資源を積極的に活用し、魅力ある幼児教育の環境づくりを推進しています。また、教育方針「5つの柱」―「1. お互いを大切に、健やかに生きる力を育む」「2. 遊びを通して、主体的に学ぶ力を育む」「3. よく考え、自ら行動する力を育む」「4. 豊かな環境の中で創造性や発想力を育む」「5. 多様性に出会い、共に生きる力を育む」を基本に、人間形成の基礎をつくる大切な時期にある子どもたちの多様な力を育みます。

数字で見る 東洋大学

最新のデータをダイジェストでとりまとめています。

▶ 学部学科数 (2025年度)

14 学部 51 学科・専攻

常に時代の変化を見据えた学びを追求し、教育の総合性を発展させてきた本学。2025年度に総合情報学部総合情報学科に「メディア情報専攻」「心理・スポーツ情報専攻」「システム情報専攻」の3専攻を新たに設置しました。2027年度には環境イノベーション学部環境イノベーション学科を設立し、合計15学部52学科・専攻となります。

▶ 学生数の推移 (2026年度)

33,003 名

※2026年5月1日現在の暫定数であり、変更になる場合があります。



▶ 外部評価

18 年連続
評価 AA

株式会社日本格付研究所 (JCR)

▶ 卒業生アンケートによる大学満足度

96.8 %

2025年度卒業生アンケート

▶ 改革力が高い大学

6 位

大学通信「改革力が高い大学ランキング2025」

▶ 就職率

96.6 %

▶ 地域貢献

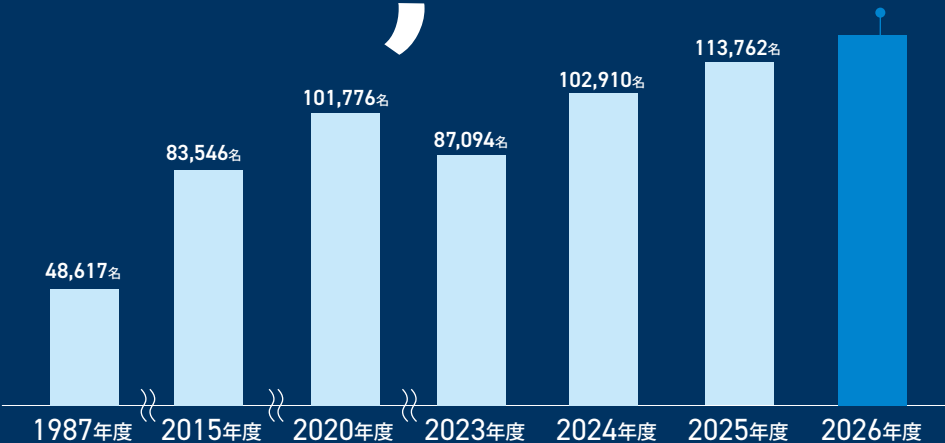
3 位

首都圏大学
日経グローバル「大学の地域貢献度に関する全国調査2025」

▶ 志願者数の推移

私立大学全国 3 位

119,233 名



(2026年度大学入学共通テスト利用入試・一般入試・多面的評価入試・実技入試／学部第1・2部合計)

▶ 教員数 (2026年度)

820 名

※2026年5月1日現在の暫定数であり、変更になる場合があります。

▶ 第2部・イブニングコース入学定員 (2027年度入試)

670 名

全私立大学夜間部学生の約29%

▶ 海外留学・研修派遣者総数 (10年間)

14,416 名

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援 タイプB(グローバル化率引型)」に採択されている本学は、グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指し、多様なプログラムによる留学支援・留学生受け入れに取り組んでいます。

(2016年4月1日～2026年3月31日実績)

▶ 海外との協定件数

(2026年3月31日現在)

大学間

44 カ国・地域

部局間等

33 カ国・地域

281 協定

107 協定

▶ 卒業生数 (2026年4月1日までの累計)

376,372 名



基礎データ

■ 在籍学生数 (2026年5月1日現在暫定数)

学部 (第1部)

学部	男性	女性	合計
文学部	1,713	1,953	3,666
経済学部	1,969	763	2,732
経営学部	1,854	1,082	2,936
法学部	1,382	800	2,182
社会学部	1,028	1,630	2,658
理工学部	2,566	602	3,168
国際学部	782	963	1,745
国際観光学部	507	1,031	1,538
生命科学部	799	556	1,355
ライフデザイン学部	28	16	44
総合情報学部	818	281	1,099
食環境学部	482	779	1,261
情報連携学部	1,070	215	1,285
福祉社会デザイン学部	535	1,444	1,979
健康スポーツ科学部	681	688	1,369
第1部合計	16,214	12,803	29,017

学部 (第2部)

学部	男性	女性	合計
文学部	321	208	529
経済学部	525	133	658
経営学部	342	165	507
法学部	362	153	515
社会学部	310	269	579
第2部合計	1,860	928	2,788
第1部・第2部合計	18,074	13,731	31,805

通信教育課程

	男性	女性	合計
合計	4	5	9

大学院

研究科	男性	女性	合計
文学研究科	67	61	128
社会学研究科	26	32	58
法学研究科	36	17	53
経営学研究科	51	16	67
理工学研究科	208	33	241
経済学研究科	78	34	112
国際学研究科	35	40	75
国際観光学研究科	12	31	43
生命科学研究科	106	47	153
社会福祉学研究科	17	24	41
ライフデザイン学研究科	27	37	64
総合情報学研究科	56	18	74
食環境科学研究科	10	15	25
情報連携学研究科	16	4	20
健康スポーツ科学研究科	23	21	44
合計	768	430	1,198

附属学校等・幼稚園

学校名	男性	女性	合計
附属姫路高等学校	701	489	1,190
附属牛久高等学校	873	802	1,675
東洋大学京北高等学校	474	466	940
高等学校合計	2,048	1,757	3,805
附属姫路中学校	130	113	243
附属牛久中学校	89	78	167
東洋大学京北中学校	195	194	389
中学校合計	414	385	799
附属京北幼稚園	26	30	56

キャンパス別学生数

(学部第1部・第2部、大学院)

キャンパス	男性	女性	合計
白山キャンパス	11,388	9,374	20,762
川越キャンパス	3,546	899	4,445
朝霞キャンパス	1,496	1,429	2,925
赤羽台キャンパス	2,412	2,459	4,871
合計	18,842	14,161	33,003

■ 専任教員数 (2026年5月1日現在)

	学部	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	小計	助手	合計
白山キャンパス	文学部	58	26	4	8	96	0	96
	経済学部	39	21	5	4	69	0	69
	経営学部	35	25	8	4	72	0	72
	法学部	33	14	7	1	55	0	55
	社会学部	40	17	7	5	69	0	69
	国際学部	23	7	8	3	41	0	41
	国際観光学部	17	7	8	0	32	0	32
	白山キャンパス合計	245	117	47	25	434	0	434

	学部	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	小計	助手	合計
朝霞キャンパス	生命科学部	29	11	3	3	46	0	46
	食環境科学部	23	14	3	3	43	5	48
	朝霞キャンパス合計	52	25	6	6	89	5	94

	学部	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	小計	助手	合計
赤羽台キャンパス	情報連携学部	19	9	4	9	41	0	41
	福祉社会デザイン学部	28	20	1	13	62	3	65
	健康スポーツ科学部	15	15	8	11	49	2	51
	赤羽台キャンパス合計	62	44	13	33	152	5	157

	所属	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	小計	助手	合計
その他	大学院	5	0	0	0	5	0	5
	IR室	1	0	0	0	1	0	1
	国際教育センター	0	3	11	0	14	0	14

附属学校教員数

学校名	教諭	助教諭	講師	外国語指導助手	合計
附属姫路中学校	17	0	0	0	17
附属姫路高等学校	76	0	0	0	76
附属牛久中学校	14	0	1	0	15
附属牛久高等学校	80	1	2	0	83

学校名	教諭	助教諭	講師	助手	合計
東洋大学京北中学校	27	0	0	1	28
東洋大学京北高等学校	49	0	1	1	51
附属京北幼稚園	7	0	0	0	7
合計	270	1	4	2	277

■ 事務職員数 (2026年5月1日現在)

大学

身分	職員数
参事	12
副参事	23
主事	65
主事補	98
書記	197
事務職員	13
特任職員	17
専任職員等小計	425
常勤嘱託	89
特別嘱託	12
嘱託小計	101
合計	526

附属学校

学校名	参事	副参事	主事	主事補	書記	事務職員	特任職員	常勤嘱託	特別嘱託	職員合計
附属姫路中学校・高等学校	0	0	0	1	2	1	0	10	0	14
附属牛久中学校・高等学校	0	0	1	1	3	0	0	1	0	6
東洋大学京北中学高等学校	0	0	1	2	1	0	1	3	0	8
合計	0	0	2	4	6	1	1	14	0	28



各種データはWebサイトからご覧いただけます。



入試データ (2026年度入試)

共通テスト利用入試・一般入試・多面的評価入試・実技入試 (第1部/第2部・イブニングコース)

総合型選抜・学校推薦型選抜 (AO型推薦/自己推薦/学校推薦/「独立自活」支援推薦)

総合型選抜 (基礎学力テスト型)

学部	学科(専攻)	共通テスト利用入試・ 一般入試・ 多面的評価入試・ 実技入試		総合型選抜・ 学校推薦型選抜		総合型選抜 (基礎学力 テスト型入試)		合格者数 合計
		志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	
文学部	哲学科	1,993	281	64	16	365	61	358
	東洋思想文化学科	1,171	208	27	17	392	80	305
	日本文学文化学科	2,739	523	30	15	418	98	636
	英文文学科	2,559	595	22	17	417	108	720
	史学科	3,368	662	-	-	514	109	771
	教育学科(人間発達専攻)	1,576	362	41	11	271	86	459
	教育学科(初等教育専攻)	1,015	235	30	9	196	37	281
	国際文化コミュニケーション学科	1,485	317	30	14	428	90	421
文学部合計		15,906	3,183	244	99	3,001	669	3,951
経済学部	経済学科	7,650	1,306	14	7	1,469	223	1,536
	国際経済学科	2,463	523	15	13	736	151	687
	総合政策学科	3,242	640	32	15	561	119	774
経済学部合計		13,355	2,469	61	35	2,766	493	2,997
経営学部	経営学科	8,472	1,502	19	10	1,193	203	1,715
	マーケティング学科	4,781	559	31	18	917	131	708
	会計ファイナンス学科	2,604	509	10	9	720	159	677
経営学部合計		15,857	2,570	60	37	2,830	493	3,100
法学部	法律学科	6,673	1,220	47	31	825	152	1,403
	企業法学科	3,949	768	47	30	401	113	911
法学部合計		10,622	1,988	94	61	1,226	265	2,314
社会学部	社会学科	4,028	952	54	6	732	128	1,086
	国際社会学科	3,213	684	17	12	635	141	837
	メディアコミュニケーション学科	3,440	634	-	-	520	106	740
	社会心理学科	2,886	395	-	-	649	124	519
社会学部合計		13,567	2,665	71	18	2,536	499	3,182
国際学部	グローバル・イノベーション学科	1,752	299	33	13	282	49	361
	国際地域学科(国際地域専攻)	2,668	754	73	29	367	124	907
国際学部合計		4,420	1,053	106	42	649	173	1,268
国際観光学部	国際観光学部	4,145	681	243	68	846	147	896
	国際観光学部合計	4,145	681	243	68	846	147	896
情報連携学部	情報連携学科	3,944	1,247	14	9	402	129	1,385
	情報連携学部合計	3,944	1,247	14	9	402	129	1,385
福祉社会 デザイン学部	社会福祉学科	2,320	609	108	66	419	121	796
	子ども支援学科	942	229	44	17	199	55	301
	人間環境デザイン学科	1,358	324	54	40	267	63	427
福祉社会 デザイン学部合計		4,620	1,162	206	123	885	239	1,524
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	3,291	478	183	43	508	87	608
	栄養科学科	813	152	30	13	106	26	191
健康スポーツ科学部合計		4,104	630	213	56	614	113	799
理工学部	機械工学科	2,775	864	6	5	273	116	985
	電気電子情報工学科	2,095	606	2	2	208	85	693
	応用化学科	2,201	715	6	6	211	131	852
	都市環境デザイン学科	1,902	502	14	9	164	57	568
	建築学科	2,425	576	18	6	257	110	692
理工学部合計		11,398	3,263	46	28	1,113	499	3,790
総合情報学部	総合情報科学科(メディア情報専攻)	1,530	298	10	5	211	54	357
	総合情報科学科(心理・スポーツ情報専攻)	510	121	24	9	114	30	160
	総合情報科学科(システム情報専攻)	1,153	232	17	10	230	59	301
総合情報学部合計		3,193	651	51	24	555	143	818
生命科学部	生命科学科	2,658	479	25	10	223	41	530
	生体医工学科	1,117	316	5	4	105	42	362
	生物資源学科	1,752	460	14	11	164	47	518
生命科学部合計		5,527	1,255	44	25	492	130	1,410
食環境科学部	食環境科学科	1,435	419	27	15	177	48	482
	フードデータサイエンス学科	539	151	14	10	57	18	179
	健康栄養学科	1,155	229	49	10	166	33	272
食環境科学部合計		3,129	799	90	35	400	99	933
第1部合計		113,787	23,616	1,543	660	18,315	4,091	28,367
文学部	東洋思想文化学科	283	75	4	4	20	17	96
	日本文学文化学科	370	87	15	15	16	13	115
	教育学科	426	85	11	7	20	12	104
	文学部合計	1,079	247	30	26	56	42	315
	経済学部	1,215	271	29	26	98	85	382
経営学部	経営学科	852	177	21	16	65	43	236
	経営学部合計	852	177	21	16	65	43	236
法学部	法律学科	771	300	43	35	38	28	363
	法学部合計	771	300	43	35	38	28	363
社会学部	社会学科	888	385	38	27	82	60	472
	社会学部合計	888	385	38	27	82	60	472
国際学部	国際地域学科(地域総合専攻)	641	190	20	12	30	21	223
	国際学部合計	641	190	20	12	30	21	223
第2部・イブニングコース合計		5,446	1,570	181	142	369	279	1,991
総合計		119,233	25,186	1,724	802	18,684	4,370	30,358

大学院 博士前期・修士課程

研究科



国際交流データ

留学生数・留学者数

派遣留学者数(中途帰国者を含む)

プログラム名	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
長期 交換留学(派遣)	71	195	187	188	160
留学 認定留学	2	6	2	3	2
協定校語学留学	0	108	103	57	79
短期語学セミナー	153	155	179	196	200
共創体験型プログラム	0	142	144	81	92
合計	226	606	615	525	533

※ 国際教育センター主催のプログラムおよび国際学部グローバル・イノベーション学科(GINOS)長期留学派遣者数を記載
※ 2021年度は新型コロナウイルスの影響によりオンラインで実施
※ 2022年度は実渡航とオンラインの両参加人数を含む

大学間海外協定先等一覧(2026年3月31日現在)



出身国別留学者数(2026年5月1日現在)

掲載データは本書発行時期における最新の集計結果を掲載しております。発行後に更新される情報は本学Webサイトでご確認ください。

アメリカ	イタリア	インド	インドネシア	ウガンダ共和国	ウクライナ	ウズベキスタン	エスワティニ王国
学部合計4 大学院合計2 総合計6	学部合計1 総合計1	学部合計3 大学院合計3 総合計6	学部合計11 大学院合計7 総合計18	大学院合計1 総合計1	大学院合計1 総合計1	学部合計4 総合計4	大学院合計1 総合計1
カタール	カナダ	カメルーン共和国	韓国(・朝鮮)	カンボジア	キルギス	ケニア共和国	コンゴ民主共和国
大学院合計1 総合計1	学部合計2 総合計2	大学院合計1 総合計1	学部合計110 総合計110	大学院合計6 総合計6	学部合計1 大学院合計1 総合計2	大学院合計7 総合計7	学部合計1 総合計1
ソロモン諸島	タイ	台湾	タジキスタン	タンザニア	中国	トンガ王国	ナイジェリア
大学院合計1 総合計1	学部合計2 大学院合計2 総合計4	学部合計25 大学院合計1 総合計26	学部合計1 総合計1	大学院合計5 総合計5	学部合計985 大学院合計252 総合計1,237	学部合計3 総合計3	大学院合計3 総合計3
ニュージーランド	ネパール	パキスタン	バングラデシュ	ブルガリア	フィリピン	ブラジル	フランス
学部合計2 総合計2	学部合計1 大学院合計1 総合計2	大学院合計1 総合計1	大学院合計2 総合計2	大学院合計1 総合計1	学部合計1 大学院合計3 総合計4	学部合計1 総合計1	学部合計2 総合計2
ベトナム	ベネズエラ共和国	ポルトガル	マラウイ共和国	マレーシア	ミャンマー	モルディブ共和国	モンゴル
学部合計23 大学院合計4 総合計27	大学院合計1 総合計1	学部合計1 総合計1	大学院合計2 総合計2	学部合計36 大学院合計5 総合計41	学部合計54 大学院合計6 総合計60	大学院合計1 総合計1	学部合計6 大学院合計1 総合計7
ラトビア	ルワンダ	ロシア	学部(第1部)合計1,283名 大学院合計325名 総計1,608名				
学部合計1 総合計1	大学院合計1 総合計1	学部合計2 大学院合計1 総合計3					



就職データ

学部別進路状況(学部第1部)

学部	就職率	就職者率	進路決定率
文学部	99.4%	86.0%	92.0%
経済学部	98.7%	90.9%	94.1%
経営学部	98.5%	90.1%	91.8%
法学部	98.4%	88.0%	90.9%
社会学部	98.3%	87.7%	92.1%
国際学部	97.3%	81.7%	86.6%
国際観光学部	99.4%	94.3%	95.4%

【第1部文学部】
アイリスオーヤマ株式会社
アクセント株式会社
APPLE JAPAN合同会社
ANA(全日本空輸株式会社)
TOPPAN株式会社
りそなグループ
東京都
東京都教育委員会
埼玉県教育委員会
千葉県教育委員会

【第1部法学部】
東京国税局
農林水産省
東京都
埼玉県
警視庁
株式会社伊藤園
伊藤忠
テクノソリューションズ株式会社
株式会社キーエンス
株式会社村田製作所
株式会社ゆうちょ銀行
(日本郵政グループ)

【第1部経済学部】
アマゾンジャパン合同会社
SCSK株式会社
コナミグループ
株式会社サイバーエージェント
株式会社日立製作所
株式会社みずほ銀行
りそなグループ
YKK株式会社
東京国税局
東京都

【第1部経営学部】
アクセント株式会社
APPLE JAPAN合同会社
株式会社東京ドーム
TOPPAN株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
株式会社日本経済新聞社
日本電気株式会社(NEC)
株式会社村田製作所
PwCコンサルティング合同会社
りそなグループ

【第1部国際観光学部】
アクセント株式会社
株式会社エイチ・アイ・エス
ANA(全日本空輸株式会社)
近畿日本ツーリスト株式会社
クラブツーリズム株式会社
ザ・リッツカールトン
株式会社JTB
株式会社帝国ホテル
東武タワースカイツリー株式会社
日本航空株式会社

【第1部社会学部】
NHK(日本放送協会)
株式会社キーエンス
株式会社コーセー
株式会社千葉銀行
TOPPAN株式会社
公益財団法人日本財団
マルハニチロ株式会社
株式会社みずほ銀行
りそなグループ
東京都

【第1部国際学部】
株式会社エイチ・アイ・エス
ANA(全日本空輸株式会社)
大和証券グループ
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本航空株式会社
株式会社アルビオン
羽田空港サービス株式会社
株式会社みずほ銀行
三菱食品株式会社
株式会社LIXIL

学部	就職率	就職者率	進路決定率
理工学部	99.2%	71.7%	95.5%
総合情報学部	98.6%	86.7%	92.3%
生命科学部	96.3%	67.0%	92.3%
食環境科学部	98.9%	83.3%	91.9%
ライフデザイン学部	97.5%	86.9%	90.7%
情報連携学部	99.3%	91.6%	95.3%
合計	98.6%	85.5%	92.5%

【ライフデザイン学部】
SOMPO株式会社
神奈川県
社会福祉法人仁慈保育園
東京都福祉局
東京都教育委員会
株式会社ティップネス
J.R.東日本スポーツ株式会社
クリナップ株式会社
株式会社乃村工務社
株式会社ソニー・ミュージック
エンタテインメント

【理工学部】
東海旅客鉄道株式会社
本田技研工業株式会社
大成建設株式会社
エスター株式会社
ダイキン工業株式会社
三菱電機株式会社
J-POWER(電源開発株式会社)
富士フイルムメディカル株式会社
日本ロレアル株式会社
東京都

【総合情報学部】
株式会社NTTドコモ
株式会社バンダイ
株式会社小学館
集英社プロダクション
株式会社船井総合研究所
株式会社日立ソリューションズ
株式会社博報堂アイ・スタジオ
本田技研工業株式会社
NECネットエスアイ株式会社
ブーマジャパン株式会社
デジタル庁

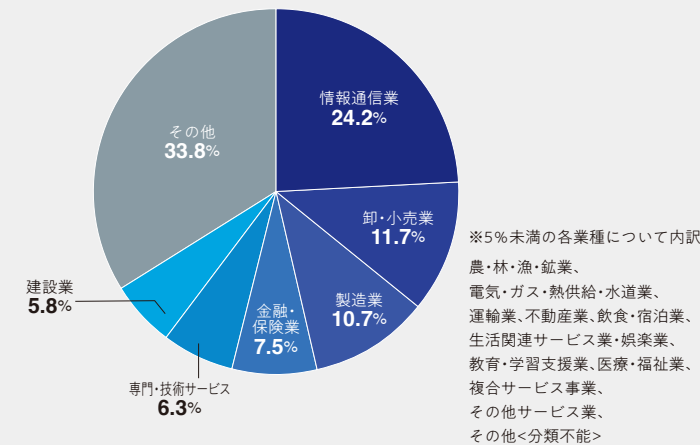
【食環境科学部】
東洋製罐グループホールディングス
株式会社
サントリーロジスティクス株式会社
一般社団法人東京都食品衛生協会
東京食品技術研究所
アクセント株式会社
エムサービス株式会社
株式会社東ハト
山崎製パン株式会社
日清医療食品株式会社
東京慈恵会医科大学病院
さいたま市



都道府県別/Uターン就職状況

都道府県別 就職者数	Uターン 就職者数	Uターン 就職率
北海道	34名	9名 26.5%
青森県	1名	0名 0.0%
岩手県	2名	0名 0.0%
宮城県	8名	2名 25.0%
秋田県	1名	1名 100.0%
山形県	7名	5名 71.4%
福島県	14名	9名 64.3%
新潟県	21名	16名 76.2%
富山県	15名	7名 46.7%
石川県	18名	1名 5.6%
福井県	5名	1名 20.0%
山梨県	11名	7名 63.6%
長野県	38名	26名 68.4%
岐阜県	12名	1名 8.3%
静岡県	46名	18名 39.1%
愛知県	77名	10名 13.0%
茨城県	51名	38名 74.5%
栃木県	44名	26名 59.1%
群馬県	44名	24名 54.5%
埼玉県	271名	180名 66.4%
千葉県	168名	116名 69.0%
東京都	4,152名	1,206名 29.0%
神奈川県	210名	73名 34.8%
福岡県	22名	5名 22.7%
佐賀県	2名	0名 0.0%
長崎県	3名	0名 0.0%
熊本県	4名	1名 25.0%
大分県	2名	1名 50.0%
宮崎県	2名	0名 0.0%
鹿児島県	2名	1名 50.0%
沖縄県	8名	2名 25.0%
その他	1名	

業種別就職状況(学部第1部)



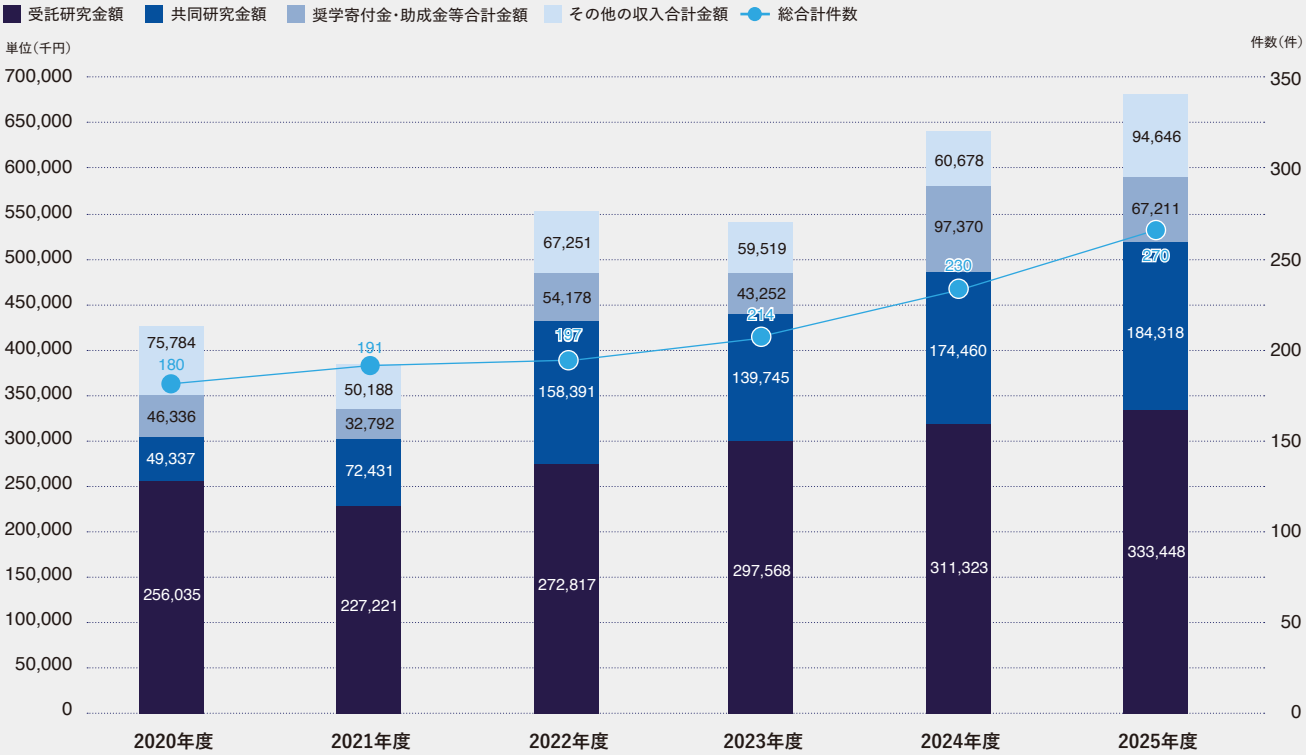
21自治体と就職支援協定を締結

以下の自治体と、学生のU・ターン就職を促進するための協定を締結しています。
(地方就職促進事業加盟を含む)
北海道、札幌市、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、新潟県、富山県、石川県、山梨県、長野県、静岡県、大阪府、兵庫県、福岡県(21自治体/2026年3月現在)

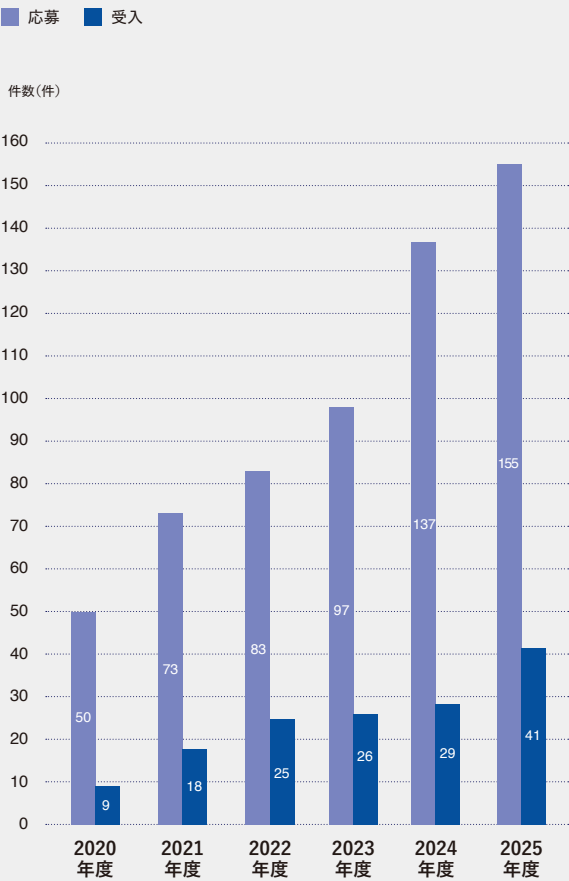


研究データ

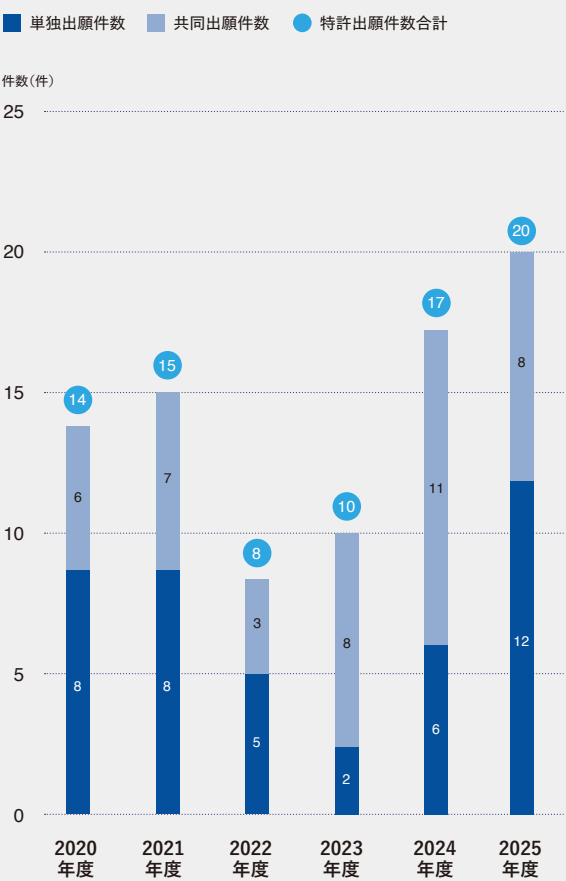
■ 受託研究・共同研究・奨学寄付金・助成金その他の収入総合計



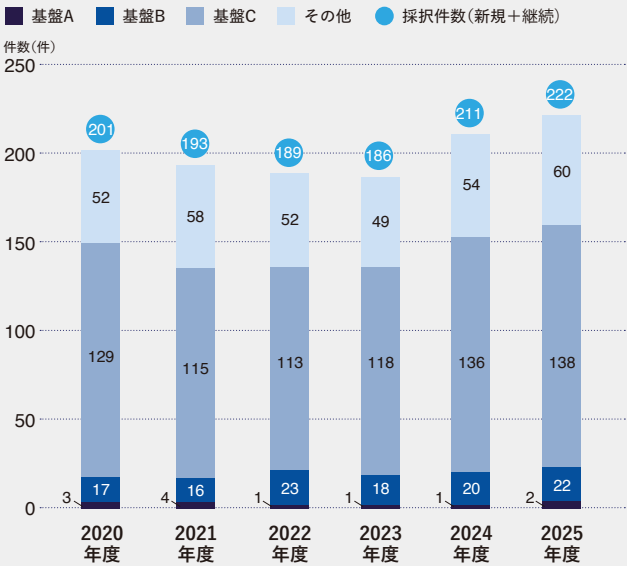
■ 学外研究助成応募・受入数の推移



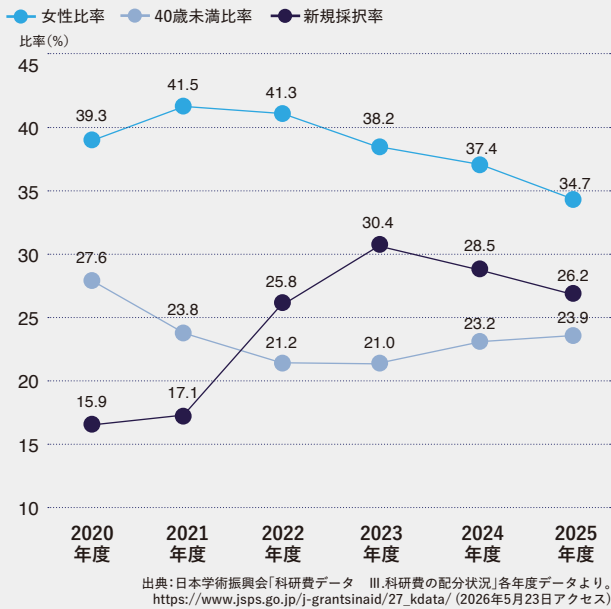
■ 特許出願件数



■ 科研費採択状況(新規+継続)



■ 科研費採択状況(新規+継続)

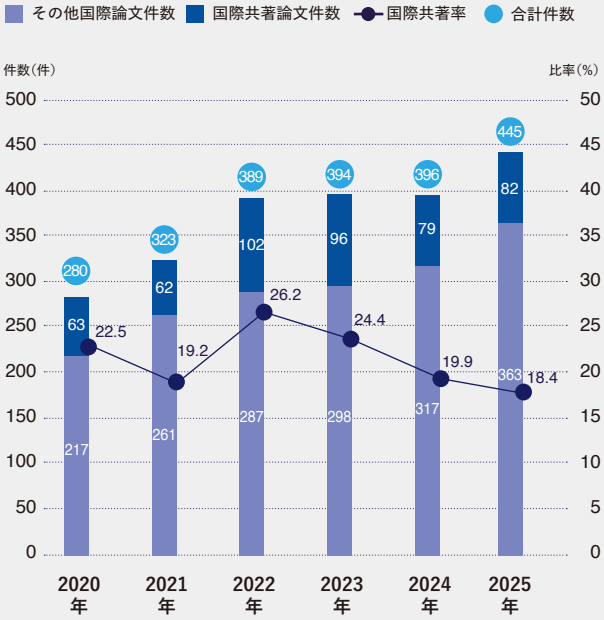


■ 科研費採択状況(2020年度~2025年度の累計採択件数)

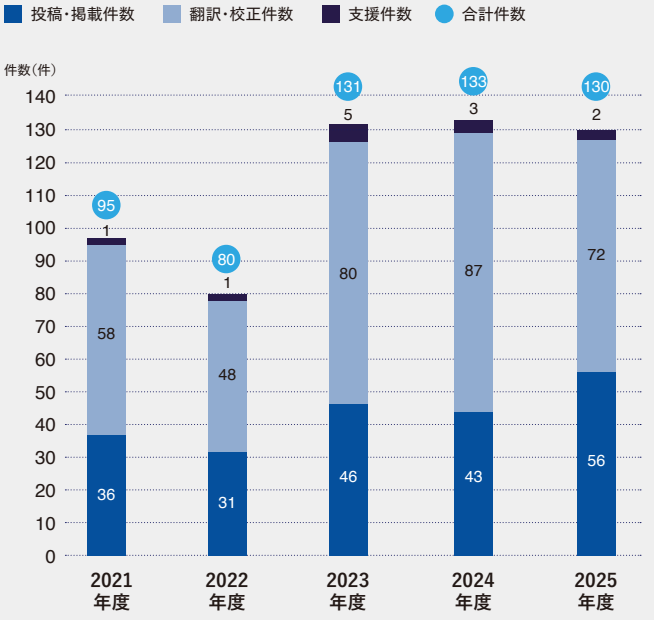
学術変革領域研究 (A)	2	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (A))	2
学術変革領域研究 (B)	1	若手研究	96
基盤研究 (A)	3	奨励研究	1
基盤研究 (B)	37	新学術領域研究 (研究領域提案型)	3
基盤研究 (C)	250	挑戦的研究 (開拓)	1
研究活動スタート支援	24	挑戦的研究 (萌芽)	6
国際共同研究加速基金 (海外連携研究)	1	特別研究員奨励費	11
総計			438

出典: 国立情報学研究所「KAKEN-研究課題をさがす」「科学研究費助成事業データベース」より。
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/> (2026年5月23日アクセス)

■ 国際論文・国際共著論文数の推移



■ 国際学術誌への学術論文投稿助成制度件数の推移





図書館データ／学位授与状況／教職データ

■ 図書館データ

図書所蔵数(2026年3月31日現在)

	和書	洋書	合計
白山図書館	749,727	218,258	967,985
川越図書館	148,501	53,198	201,699
朝霞図書館	79,990	10,845	90,835
赤羽台図書館	260,719	25,378	286,097

雑誌所蔵タイトル数(2026年3月31日現在)

	和雑誌	洋雑誌	合計
白山図書館	6,339	3,171	9,510
川越図書館	969	1,158	2,127
朝霞図書館	329	188	517
赤羽台図書館	1,626	475	2,101

入館者数(2025年度開館日)

	開館日数	延べ入館者数
白山図書館	294	470,611
川越図書館	276	109,529
朝霞図書館	277	81,361
赤羽台図書館	272	86,200

■ 学位授与状況 (2025年4月1日～2026年3月31日授与)

研究科	9月修了		3月修了		博士 (論文)
	修士	博士 (課程)	修士	博士 (課程)	
文学研究科	3	0	32	1	0
社会学研究科	2	0	20	0	0
法学研究科	0	0	5	0	0
経営学研究科	0	0	34	1	0
理工学研究科	2	2	107	3	0
経済学研究科	2	0	37	0	1
国際学研究科	21	2	10	1	0
国際観光学研究科	2	3	15	0	0
国際地域学研究科		0		0	0

研究科	9月修了		3月修了		博士 (論文)
	修士	博士 (課程)	修士	博士 (課程)	
生命科学研究科	1	0	62	0	0
社会福祉学研究科	2	0	5	0	0
ライフデザイン学研究科	1	0	10	0	0
福祉社会デザイン研究科		0		0	0
総合情報学研究科	1	2	29	1	0
食環境科学研究所	0	0	5	0	0
情報連携学研究科	0		13	1	
健康スポーツ科学研究所	0		21	4	
合計	37	9	405	12	1

■ 教育職員免許状申請状況(2026年3月1日現在)

白山キャンパス

	学部	申請者数	小1種	中1種			高1種									特支1種	教科計
				国語	社会	英語	国語	書道	地歴	公民	商業	英語	福祉	情報			
第1部	文学部	202	42	23	93	37	24	0	92	76	0	38	0	0	13	438	
	経済学部	7	0	0	3	0	0	0	7	3	0	0	0	0	0	13	
	経営学部	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	法学部	12	0	0	11	0	0	0	12	12	0	0	0	0	0	35	
	社会学部	5	0	0	4	0	0	0	5	4	0	0	0	0	0	13	
	国際地域学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	科目等履修生	7	1	0	3	1	1	0	3	1	0	1	0	0	0	11	
	第1部合計	234	43	23	114	38	25	0	119	96	1	39	0	0	13	511	
第2部	文学部	27	0	7	16	0	8	2	15	15	0	0	0	0	0	63	
	経済学部	2	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	4	
	経営学部	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
	法学部	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
	社会学部	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	
	科目等履修生	4	0	1	1	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	6	
	第2部合計	38	0	8	18	0	9	2	19	21	2	0	0	0	0	79	
白山キャンパス 合計		272	43	31	132	38	34	2	138	117	3	39	0	0	13	590	

赤羽台キャンパス

学部	申請者数	幼1種	養1種	中1種			高1種				教科計
				理科	保健	保健体育	理科	保健	保健体育	工業	
ライフデザイン学部	158	84	22	0	11	53	0	13	53	2	240
食環境科学部	9	0	0	9	0	0	9	0	0	0	18
赤羽台キャンパス 合計	167	84	22	9	11	53	9	13	53	2	258

朝霞キャンパス

学部	申請者数	中1種	高1種	教科計
		理科	理科	
生命科学部	26	26	26	52
食環境科学部	4	4	4	8
理工学部	5	5	5	10
朝霞キャンパス 合計	35	35	35	70

川越キャンパス

学部	申請者数	中1種		高1種				教科計
		数学	理科	数学	理科	情報	工業	
理工学部	43	18	21	19	23	0	8	89
総合情報学部	12	0	0	0	0	12	0	12
川越キャンパス 合計	55	18	21	19	23	12	8	101

専修免許状

研究科	申請者数	小専修	中専修								高専修										特支専修	養護専修	教科計	
			国語	社会	英語	数学	理科	保健	保健体育	宗教	国語	地歴	公民	英語	数学	理科	保健	保健体育	宗教	工業				
文学研究科	5	0	1	3	1	0	0	0	0	0	1	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
経済学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経営学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際地域学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理工学研究科	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	8
健康スポーツ科学研究科	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4
生命科学研究科	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	8
専修免許状 合計	15	0	1	3	1	0	8	0	2	0	1	3	2	1	0	8	0	2	0	0	0	0	0	32

教育職員免許状
申請者数 合計

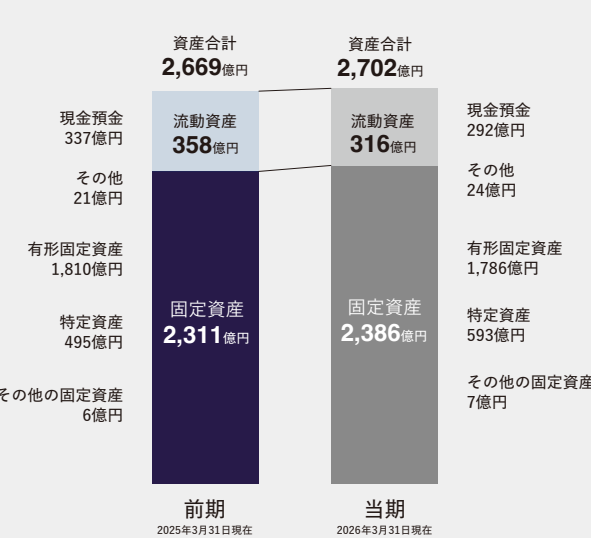
544名



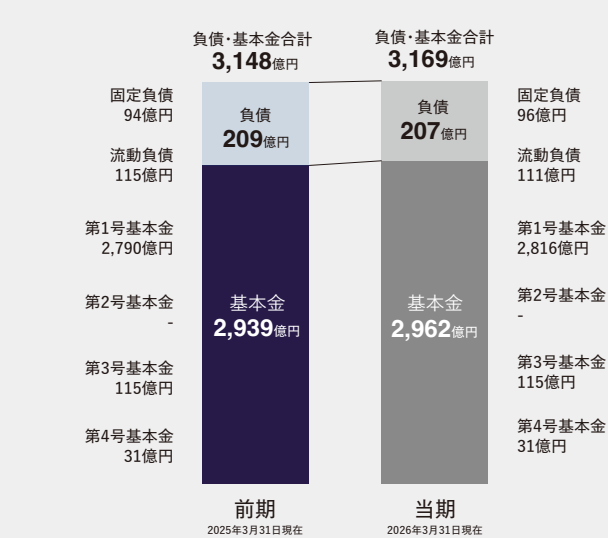
経済・財政

■ 2025年度 決算

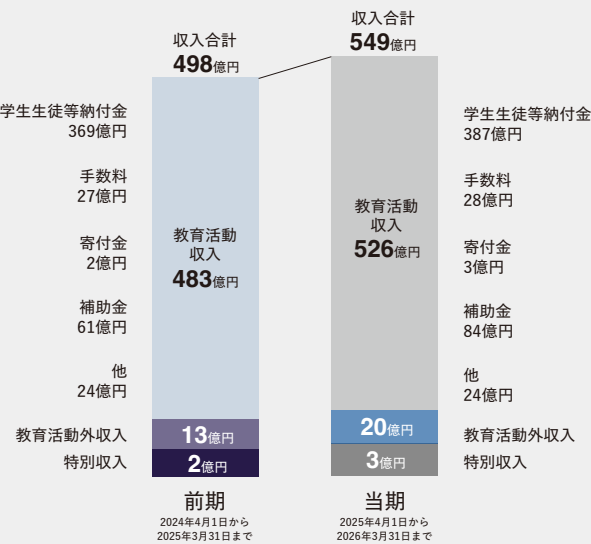
資産の状況



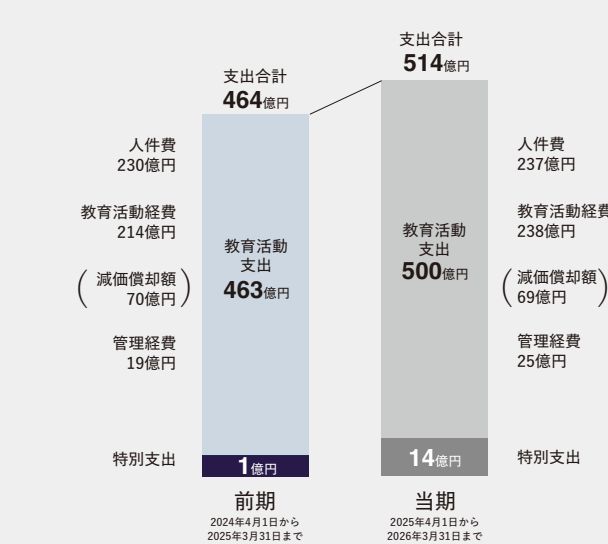
負債・基本金の状況



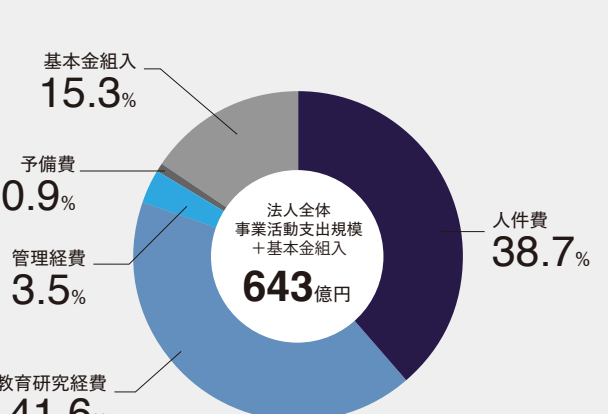
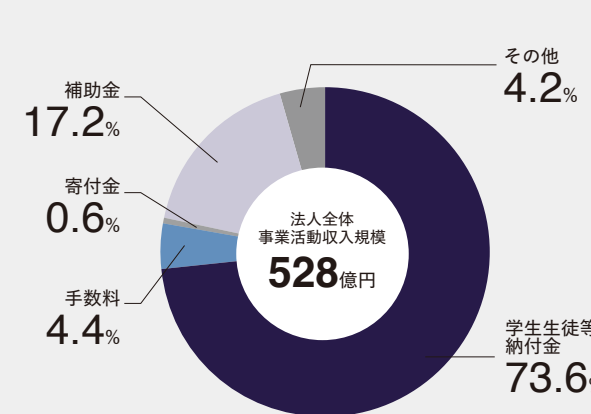
事業活動収入の状況



事業活動支出の状況



■ 2026年度 予算規模



経済・財政

■ 資金収支計算書

一事業年度における現金預金の収入および支出の一覧です。

(単位:百万円)					
収入の部	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
学生生徒等納付金収入	35,278	35,355	35,795	36,905	38,659
手数料収入	2,300	2,134	2,399	2,730	2,801
寄付金収入	282	317	175	232	265
補助金収入	5,538	5,763	5,643	6,167	8,585
資産売却収入	50	0	4,127	0	1,707
付随事業・収益事業収入	723	1,234	1,406	1,310	1,500
受取利息・配当金収入	724	436	1,300	1,251	1,977
雑収入	1,244	759	727	994	1,048
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	8,130	8,561	9,101	9,406	7,473
その他の収入	8,020	10,664	2,204	2,387	2,675
資金収入調整勘定	△9,171	△9,025	△9,600	△10,188	△10,899
前年度繰越支払資金	32,093	30,300	35,775	33,145	33,710
収入の部合計	85,212	86,497	89,053	84,340	89,501

(単位:百万円)					
支出の部	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人件費支出	21,797	21,597	22,169	22,862	23,417
教育研究経費支出	11,884	12,557	14,050	14,385	16,923
管理経費支出	1,650	1,684	2,043	1,901	2,349
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	11,949	10,060	8,441	912	2,996
設備関係支出	1,354	3,285	2,184	4,606	1,582
資産運用支出	4,646	1,755	4,908	4,639	12,166
その他の支出	3,144	2,580	3,754	2,719	2,634
資金支出調整勘定	△1,512	△2,797	△1,640	△1,393	△1,724
翌年度繰越支払資金	30,300	35,775	33,145	33,710	29,158
支出の部合計	85,212	86,497	89,053	84,340	89,501

■ 活動区分資金収支計算書

活動区分ごとの現金預金の収支の明細です。

(単位:百万円)					
科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	45,158	45,292	46,082	48,257	52,636
教育活動資金支出計	35,331	35,825	38,181	39,147	42,684
差引	9,827	9,467	7,902	9,110	9,952
調整勘定等	189	1,071	221	218	△1,982
教育活動資金収支差額	10,016	10,538	8,123	9,328	7,969
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	5,095	8,081	59	75	219
施設整備等活動資金支出計	17,443	14,385	10,665	9,577	14,338
差引	△12,348	△6,304	△10,606	△9,502	△14,119
調整勘定等	△214	974	△958	△333	△54
施設整備等活動資金収支差額	△12,562	△5,331	△11,564	△9,835	△14,172
小計(教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額)	△2,546	5,208	△3,441	△507	△6,203
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	2,243	2,012	6,729	2,693	5,180
その他の活動資金支出計	1,497	1,739	5,900	1,643	3,533
差引	746	273	829	1,050	1,646
調整勘定等	7	△5	△20	23	5
その他の活動資金収支差額	753	268	810	1,073	1,651
支払資金の増減額 (小計＋その他の活動資金収支差額)	△1,793	5,476	△2,631	566	△4,552
前年度繰越支払資金	32,093	30,300	35,775	33,145	33,710
翌年度繰越支払資金	30,300	35,775	33,145	33,710	29,158

■ 事業活動収支計算書

経営状況や財政状態を正しく理解でき、「教育の持続性」に対する判断に役立ちます。

(単位:百万円)					
科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動収支	事業活動収入の部				
	学生生徒等納付金	35,278	35,355	35,795	36,905
	手数料	2,300	2,134	2,399	2,730
	寄付金	289	329	182	231
	経常費等補助金	5,505	5,688	5,597	6,104
	付随事業収入	723	1,234	1,406	1,310
	雑収入	1,086	570	722	989
	教育活動収入計	45,182	45,311	46,101	48,268
	事業活動支出の部				
	人件費	21,847	21,726	22,329	23,023
	教育研究経費	17,258	18,049	20,169	21,391
	管理経費	1,695	1,711	2,002	1,940
	徴収不能額等	0	0	0	0
教育活動外収支	教育活動支出計	40,800	41,487	44,499	46,354
	教育活動収支差額	4,382	3,824	1,602	1,914
	事業活動収入の部				
	受取利息・配当金	724	436	1,300	1,251
	その他の教育活動外収入	160	182	0	0
	教育活動外収入計	884	618	1,300	1,251
	事業活動支出の部				
	借入金等利息	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	13	0	0
	教育活動外支出計	0	13	0	0
	教育活動外収支差額	884	605	1,300	1,251
	経常収支差額	5,266	4,429	2,902	3,165
特別収支	事業活動収入の部				
	資産売却差額	29	0	2	4
	その他の特別収入	111	147	143	183
	特別収入計	140	147	145	183
	事業活動支出の部				
	資産処分差額	1,263	356	399	134
	その他の特別支出	0	3	81	1
	特別支出計	1,263	359	479	135
	特別収支差額	△1,123	△213	△835	49
	基本金組入前当年度収支差額	4,143	4,217	2,567	3,214
	基本金組入額合計	△7,334	△5,987	△9,665	△3,489
	当年度収支差額	△3,191	△1,770	△7,098	△274
基本金取崩額	前年度繰越収支差額	△35,682	△38,873	△40,643	△47,741
	基本金取崩額	0	0	0	1
	翌年度繰越収支差額	△38,873	△40,643	△47,741	△48,015

(参考)					
事業活動収入計	46,206	46,075	47,546	49,703	54,935
事業活動支出計	42,063	41,858	44,979	46,489	51,364

■ 寄付金状況

寄付金の種類	2025年度	
	金額	件数
特別寄附金	254,022千円	6,558 件
奨学寄付金	26,000千円	25 件
教育・研究協力資金	193,945千円	6,476 件
教育・研究協力資金(施設)	8,710千円	21 件
その他の特別寄付金	25,367千円	36 件
一般寄付金	11,100千円	2 件
現物寄付金	94,284千円	1,595 件
合計	359,406千円	8,155 件

■ 貸借対照表

「学校法人の体力(財務状況・安全性)」を把握することができます。

(単位:百万円)

	2021年度末	2022年度末	2023年度末	2024年度末	2025年度末
固定資産	222,766	223,747	228,383	231,058	238,599
有形固定資産	170,582	177,966	182,556	181,024	178,578
特定資産	51,502	44,918	45,155	49,429	59,323
その他の固定資産	681	863	673	604	698
流動資産	32,477	37,495	34,966	35,759	31,566
資産の部合計	255,243	261,242	263,349	266,816	270,165
固定負債	8,984	9,095	9,255	9,416	9,633
流動負債	10,363	12,033	11,414	11,506	11,067
負債の部合計	19,347	21,129	20,669	20,922	20,700
基本金	274,769	280,756	290,421	293,909	296,188
第1号基本金	255,808	266,795	276,459	279,331	281,610
第2号基本金	5,000	0	0	0	0
第3号基本金	11,467	11,467	11,467	11,467	11,467
第4号基本金	2,494	2,494	2,494	3,110	3,110
繰越収支差額	△38,873	△40,643	△47,741	△48,015	△46,723
純資産の部合計	235,896	240,113	242,680	245,894	249,465
負債および純資産の部合計	255,243	261,242	263,349	266,816	270,165

■ 財務指標

経営成績や財政状態を数値化することで、学校法人としての「安全性」や「成長性」を読み取ることができます。

主な財務比率比較

(単位:%)

比率名	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	全国平均 (医療系法人を除く)
事業活動収支差額比率[基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入]	9.0	9.2	5.4	6.5	6.5	3.3
学生生徒等納付金比率[学生生徒等納付金／経常収入]	76.6	77.0	75.5	74.5	70.8	72.0
寄付金比率[寄付金／事業活動収入]	0.8	0.9	0.6	0.7	0.5	2.0
補助金比率[補助金／事業活動収入]	12.0	12.5	11.9	12.4	15.3	15.0
人件費比率[人件費／経常収入]	47.4	47.3	47.1	46.5	43.3	50.9
教育研究経費比率[教育研究経費／経常収入]	37.5	39.3	42.5	43.2	43.7	37.3
管理経費比率[管理経費／経常収入]	3.7	3.7	4.2	3.9	4.5	8.9
借入金等利息比率[借入金等利息／経常収入]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
基本金組入率[基本金組入額／事業活動収入]	15.9	13.0	20.3	7.0	4.2	10.0
減価償却額比率[減価償却額／経常支出]	13.2	13.3	13.8	15.2	13.9	11.4
人件費依存率[人件費／学生生徒等納付金]	61.9	61.5	62.4	62.4	61.2	70.7
基本金組入後収支比率[事業活動支出／事業活動収入－基本金組入額]	108.2	104.4	118.7	100.6	97.6	107.4
経常収支差額比率[経常収支差額／経常収入]	11.4	9.6	6.1	6.4	8.5	2.7
教育活動収支差額比率[教育活動収支差額／教育活動収入計]	9.7	8.4	3.5	4.0	5.1	0.3

「経常収入」=教育活動収入計＋教育活動外収入計

「経常支出」=教育活動支出計＋教育活動外支出計

「寄付金」=教育活動収支の寄付金＋特別収支の施設設備寄付金及び現物寄付

「補助金」=経常費等補助金＋施設設備補助金

■ 補助金状況

補助金の種類	2025年度 補助金額
国庫からのその他の補助金	6,819,745
私立大学等経常費補助金	2,837,342
一般補助	2,639,144
特別補助	198,198
成長力強化に貢献する質の高い教育	8,400
大学等の国際交流の基盤整備	47,644
大学院等の機能の高度化	126,154
私立大学等改革総合支援事業	16,000
私立学校施設整備費補助金・私立大学等研究設備整備費等補助金	205,919
国際化拠点整備事業費補助金(大学の世界展開力強化事業)	13,773

(単位:千円)

補助金の種類	2025年度 補助金額
大学・高専成長分野転換支援基金助成金	18,000
大学等における修学の支援に関する法律による授業料等減免交付金	3,737,876
その他の補助金	6,835
地方公共団体等からの補助金	1,762,717
私立学校経常費補助金	1,702,262
授業料軽減補助金・入学金軽減補助金	444
その他の補助金	60,011
学術研究振興資金	3,000
合計	8,585,462

キャンパス・施設／附属学校・幼稚園

キャンパス・施設

白山キャンパス



文学部／経済学部／経営学部／法学部／社会学部／国際学部／
国際観光学部
文学研究科／経済学研究科／経営学研究科／法学研究科／
社会学研究科／国際学研究科／国際観光学研究科

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
TEL.03-3945-7224

赤羽台キャンパス



情報連携学部／福祉社会デザイン学部／健康スポーツ科学部
情報連携学研究科／社会福祉学研究科／ライフデザイン学研究科／
健康スポーツ科学研究科

〒115-8650 東京都北区赤羽台1-7-11
TEL.03-5924-2100

川越キャンパス



理工学部／総合情報学部／環境イノベーション学部(2027年4月開設)
理工学研究科／総合情報学研究科／
環境イノベーション学研究科(2027年4月開設)

〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100
TEL.049-239-1300

朝霞キャンパス



生命科学部／食環境科学部
生命科学研究科／食環境科学研究科

〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1
TEL.048-468-6311

総合スポーツセンター

〒174-0053 東京都板橋区清水町92-1
TEL.03-6454-3340

附属学校・幼稚園

東洋大学附属 姫路中学校・高等学校



〒671-2201
兵庫県姫路市書写1699
TEL.079-266-2626

東洋大学附属 牛久中学校・高等学校



〒300-1211
茨城県牛久市柏田町1360-2
TEL.029-872-0350

東洋大学 京北中学高等学校



〒112-8607
東京都文京区白山2-36-5
TEL.03-3816-6211

東洋大学附属 京北幼稚園



〒113-0021
東京都文京区本駒込2-13-5
TEL.03-3941-7090